ハンドヘルドバーコードリーダ
バーコードメニューシート

（Rev.H 2013_3_1）

Touch TD1100 シリーズ
QUICKSCAN ™シリーズ
QD2130-XX

Gryphon® シリーズ
GD4130-XX
GD4130-XX-C201
GD4330-XX
GD4400-XX
GBT4100-XX
GBT4400-XX

PowerScan®シリーズ
PD7130-YB-PTR
PBT7100-YB-PTR

はじめに

このたびはデータロジック社製ハンドヘルドバーコードリーダをお買い上げいただき誠にありがとうございます。 本バーコードメニューシートではハンドヘルドバーコードリーダの各種パラメータ設定に基づく内容を記載しておりますので、ご一読いただきますようにお願いします。 尚、バーコードリーダの接続や仕様については、製品別「取扱説明書」に記載していますので、そちらを参照して下さい。「取扱説明書」の用意できてない製品に関しては、弊社マーケティング課までお問い合わせ願います。

ご注意

1. 本書の内容の全部または一部を無断で複製・配布することを禁じます。
2. 本書の内容は予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。
3. 本書の内容には万全を期していますが内容を保証するものではありません。ご不審な点や誤り記載漏れなどお気付きのことがありましたら、ご購入された販売店もしくは巻末記載の弊社担当窓口までお問合せください。
4. また、本書を利用した結果の影響については 3 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
5. 輸出について
   お客様が輸出を行う場合、すべての製品に対して該非判定書及びパラメータシート(必要な場合に限り)を弊社コンプライアンスに準じてご用意致します。ただしキャッチオール規制の要求に該当する場合は輸出許可が必要になります。法令の改正により、弊社製品の該非判定が変更される場合がございますが、あらかじめご了承願います。

   参考までに、2012 年 8 月の法改正以前まで、Bluetooth 製品は日本国の輸出規制に該当し、判定内容は輸出貿易管理令別表第1の 9-(7)、及び、外国為替令別表の 9 項に該当しておりました。但し、暗号特例を適用する事で、輸出許可の取得が不要となります。しかしながら、昨年の法改正以降、Bluetooth 製品は対象外となりました。

6. Gryphon I GBT4100 PowerScan PBT7130 は Bluetooth ワイヤレステクノロジーに基づく無線設備を内蔵しています。これらの機器は、各国の電波法により輸出及び使用が規制される対象となります。そのため、輸出先の国によっては、当該国の法令により、輸入者あるいはその使用者が処罰される可能性がありますので、ご注意願います。

記号の見方

本書では、次のような記号を用いて、重要な部分が一目でわかるようになっています。必ずお読みください。

重要	操作に対して特に重要と思われるものを示します。
注記	誤りやすい操作に対する注意を示します。
補足	参考までに明記しておきたい内容を示します。

改定経歴

版数	日付	改定番号	内容
1	2011/5/10	A	初版
2	2011/6/16	B	はじめにの項で、輸出についての注意事項を追記。
3	2011/7/01	C	P81 ラベル ID=バーコードデータ前に付加の設定バーコードに誤りがありましたので、正しい設定バーコードに修正。
4	2011/9/28	D	P54 Codabar スタートストップ送信の初期値は 送信許可 正 送信無効 誤 P102 東京支店　住所変更。
5	2011/11/11	E	P72 ヘッダーターミネータの登録時、1 キャラクタの登録を行う際の注意事項を明記しております。
6	2012/2/2	F	以前のクレードルビープ音の設定バーコードに誤りがありましたので修正しております。 2 次元対応製品(GD4400/GBT4400)の設定の一部を含めております。 次回の更新にて不足している設定の追加を予定しております。
7	2012/3/23	F1	P88 に 2 次元バーコードの反転読み取り設定を追加。
8	2012/9/24	G	PowerScan 7100 シリーズのレーザポインタ設定を追加。
9	2013/3/1	H	はじめに 5 輸出について 2012 年 8 月の法改正により文言を更新。 掲載するインターフェイスの順番を以下に更新。 2. キーボードウエッジ、USB キーボード 3. RS-232, USB-COM 設定 GS1 Databar Limited 2D コンポーネントの登録の有効の記載がなかったので、有効の設定を追加。

目次

1. 初期設定及びユーザ設定 1
初期設定 1
ソフトウエアバーション 1
ピックモード(2 次元バーコード対応製品のみ有効) 2

2. キーボードウエッジ、USB キーボード 3
インターフェイスの選択 (キーボードインターフェイス) 3
インターフェイスの選択 (USB キーボードインターフェイス) 3
キーボードタイプ 4
Caps Lock の設定 (PS/2 キーボードウエッジインターフェイスのみ) 5
Num Lock (PS/2 キーボードウエッジインターフェイスのみ) 6
キャラクタ間ディレー時間/コード間ディレー時間/キーボード切り替え時間 6
USB キーボード ポーリングスピード 8

3. RS-232, USB-COM 設定 10
インターフェイスの選択 10
ホストコマンドの受信選択 10
通信ボーレート (RS232 のみ設定可能) 10
パリティ (RS232 のみ設定可能) 11
データビット (RS232 のみ設定可能) 12
ストップビット (RS232 のみ設定可能) 12
ハンドシェイク (RS232 のみ設定可能) 13
キャラクタ間ディレー時間の設定 (RS232, USB-COM 設定可能) 14
ACK NAK (RS232, USB-COM 設定可能) 15
ACK キャラクタ (RS232, USB-COM 設定可能) 16
NAK キャラクタ (RS232, USB-COM 設定可能) 16
ACK NAK タイムアウト (RS232, USB-COM 設定可能) 17
ACK NAK リトライ回数 (RS232, USB-COM 設定可能) 17
有効／無効コマンド設定 (RS232, USB-COM 設定可能) 18

4. ペンエミュレーションインターフェイス 19
インターフェイスの選択 19
信号レベルの設定 19
信号速度の設定 19
アイドル信号の設定 19

5. 機能設定 20
2度読み防止時間 20
電源起動時の通知 21
スリープモードタイムアウト設定 22
読み取り LED 表示タイミング 23
読み取り確認 LED 表示 23
グッドリード読み取りブザー音の設定 24
読み取りモード設定 26
スタンドモードトリガータイムアウト設定 28
スキャニング有効時間(Scanning ActiveTime)の設定 29
フラッシュ ON/OFF 有効時間の設定 30
グリーンスポット表示 31

6. 1 次元バーコード設定 32
読み取り可能なバーコードについて 32

デコード一致回数の設定について 32
デコード厳格レベルの設定について 32
反転バーコードの読み取り設定について 32
バーコード桁数の設定について 32
EAN13 (JAN13) 33
EAN8 34
UPC-A 36
UPC-E 37
GTIN 変換 38
EAN / UPC アドオン 39
CODE 39 40
CODE 39 桁数設定 45
CODE39 桁数設定 最小最大桁数の設定 46
CODE 128 47
CODE 128 桁数設定 最小最大桁数の設定 49
GS1-128 50
Interleaved 2 of 5 (I 2 OF 5) 51
I 2 of 5 桁数設定 最小最大桁数の設定 53
Codabar (NW7) 54
Codabar (NW7) 桁数設定 59
Codabar(NW7)桁数設定 最小最大桁数の設定 60
Code93 61
CoDE 93 桁数設定 64
CODE 93 桁数設定 最小最大桁数の設定 64
GS1 DataBar OmniDIrectional 66
GS1 DataBar EXPANDED 67
GS1 DataBar EXPANDED 桁数設定 68
GS1 DataBar EXPANDED 桁数設定 最小最大桁数の設定 68
GS1 DataBar Limited 69
反転バーコードの読み取り 71

7. 2 次元バーコード設定 72
QR コード 72
QR コード桁数設定 72
QR コード桁数設定 最小最大桁数の設定 72
マイクロ QR コード 74
マイクロ QR コード桁数設定 74
Data Matrix 75
Data Matrix スタイル 76
DataMatrix 桁数設定 77
DataMatrix 桁数設定 最小最大桁数 77
Maxicode 78
Maxicode プライマリメッセージ送信 78
Maxicode 桁数設定 79
Maxicode 桁数設定 最小最大桁数 79
Aztec 80
Aztec 桁数設定 81
Aztec 桁数設定 最小最大桁数 81
PDF417 82
PDF417 桁数設定 83
PDF417 桁数設定 最小最大桁数 83
GS1 Databar Omnidirectional 2D コンポーネント 84

GS1 Databar Expanded 2D コンポーネント 84
GS1 Databar Limited 2D コンポーネント 85

8. 機能設定(2 次元バーコード対応製品) 86
照準設定 86
ピックモード 86
マルチラベル読み取り 86
マルチラベル出力(コード種類順) 87
マルチラベル出力(桁数順) 88
2次元バーコード ノーマル/反転 バーコード読み取り設定 89

9. データ編集の設定 90
グローバルヘッダ/ グローバルターミネータの設定 91
グローバル AIM ID の設定 93
個別ラベル ID コントロール 93
ラベル ID セット 94
ラベル ID 個別設定 95
大文字小文字変換 98
キャラクタ変換 98

10. パススルーモードの設定 (AUXILIARY PORT MODE) 100

11. レーザポインタの設定 (対象機種: PD7130-YB-PTR、PBT7100-YB-PTR) 102

12. BLUETOOTH 設定 (PBT7130、GBT4100/GD4400) 104
PBT7130 と専用クレードル(BC7030)のバインド(ペアリング)方法 104
PBT7130 とクレードル(BC7030)との接続確認 104
GBT4100/GD4400 とクレードル(BC4030-BT-XX)とのバインド(ペアリング)方法 105
GBT4100/GD4400 とクレードルとの接続確認 105
PC 接続-サーバーモード 105
PC 接続-クライアントモード 105
BT セキュリティモード 105
BT PIN コード 106
BT ポーリングレート 106
送信完了ビープ 108
送信完了ビープ音質 108
送信完了ビープ音量 109
送信完了ビープ音長 110
クレードルビープ音の設定 111
通信圏外アラーム 111
パワーダウン時間 112
バッチモード 113

13. 付録 115
付録 A. LED 表示とビーパー音 115
付録 B. 初期値一覧 115
付録 C. キーパッド 118
付録 D. ASCII チャート 119
付録 E. キーボードインターフェイスコード表 120
付録 G. キーボードインターフェイスコード表 特殊キー配列表(81hex～A0hex) 121

1. 初期設定及びユーザ設定

初期設定

初期設定 （設定を工場出荷時に戻す） ダイレクト設定可	**初期設定（設定を工場出荷時に戻す）** \ A \ F N C 3 $ P , A E , P \ C R
設定をカスタム設定に戻す ダイレクト設定可	**設定をカスタム設定に戻す** \ A \ F N C 3 $ P , H A 0 0 , P \ C R
設定をカスタムにする ダイレクト設定可	**カスタム設定をする** \ A \ F N C 3 $ P , A S , P \ C R

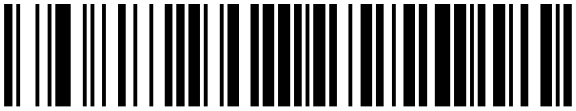
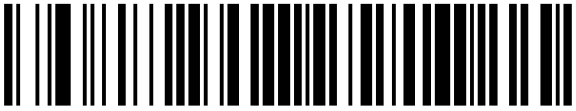
重要	カスタム設定とは、独自の設定をスキャナ保存することができます。 好みの設定を行なった後、“カスタム設定をする”のバーコードを読ませると、カスタム設定が完了し、仮に設定を変更しても、“設定をカスタム設定に戻す”のバーコードを読ませると、カスタム設定時の設定にもどります。初期設定を行なってしまうと、工場出荷時の状態に戻ります。

ソフトウエアバーション

ソフトウェアバージョンの送信 ダイレクト設定可	

補足	出力されるデータは以下の通り、 製品名と Firmware の Version 番号となります。 出力例 *Gryphon-D41xx SOFTWARE RELEASE R96-9391 10/05/2010* R96-9391 が Firmware の Version 番号となります。

ピックモード（2 次元バーコード対応製品のみ有効）

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
照準設定=無効 （初期値）	2D_ピックモード=無効  \ A \ F N C 3 $ C S N P M 0 0 \ C R
照準設定=有効	2D_ピックモード=有効  \ A \ F N C 3 $ C S N P M 0 1 \ C R

補足	このモードは、2 次元バーコード対応製品の照準（マーカ）のセンター部分（クロス部分）のみをデコードしますので、設定バーコードのようにバーコードとバーコードが比較的に近づきすぎて並んだ場合に有効です。 万が一、2 次元バーコード対応製品の設定変更が意図した設定と異なっている場合は、このモードにしてから再設定をお願いします。

注記	ピックモードとマルチラベル読み取りのモード（連結 QR コードの読み取り）は併用できませんので、マルチラベル読み取りを行う場合、ピックモードは無効に戻してください。

2. キーボードウエッジ、USB キーボード

インターフェイスの選択 (キーボードインターフェイス)

デスクトップキーボード インターフェイス(PS/2) ダイレクト設定可	デスクトップキーボード \ A \ F N C 3 $ P , H A 2 9 , P \ C R
デスクトップキーボード インターフェイス (ALT モード) ダイレクト設定可	デスクトップキーボード(ALTモード) \ A \ F N C 3 $ P , H A 2 6 , P \ C R
*ノートブックキーボード インターフェイス(PS/2) ダイレクト設定可	ノートブックキーボード \ A \ F N C 3 $ P , H A 1 1 , P \ C R
*ノートブックキーボード インターフェイス (ALT モード) ダイレクト設定可	ノートブックキーボード(ALTモード) \ A \ F N C 3 $ P , H A 1 0 , P \ C R
PC/XT 用 のキーボードインターフェイス ダイレクト設定可	PC/XT用 デスクトップキーボード \ A \ F N C 3 $ P , H A 2 8 , P \ C R
*DEC (Digital) キーボードインターフェイス ダイレクト設定可	DEC(Digital) \ A \ F N C 3 $ P , H A 1 B , P \ C R

インターフェイスの選択 (USB キーボードインターフェイス)

USB キーボード インターフェイス ダイレクト設定可	USBキーボード \ A \ F N C 3 $ P , H A 3 5 , P \ C R
USB キーボード インターフェイス (ALT モード) ダイレクト設定可	USBキーボード(ALTモード) \ A \ F N C 3 $ P , H A 2 B , P \ C R

*USB キーボード インターフェイス （MAC 用） ダイレクト設定可	MACキーボード \ A \ F N C 3 $ P , H A 2 C , P \ C R

注記	*が付いたインターフェイスは動作確認が必要な場合がありますので、弊社担当窓口にて貸し出し機にて接続確認をお願いします。

補足	バーコードリーダをWindows 98 のパソコンにはじめて接続すると、そのパソコンはUSB ドライバのインストール画面を表示します。 画面の指示に従ってインストールしてください。（Windows Vista/XP/2000 の場合、この操作は必要ありません。）

キーボードタイプ

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
日本語（106）	キーボード言語＝日本106キー \ A \ F N C 3 $ C K B C O 0 C \ C R
U.S English （初期値）	キーボード言語＝アメリカ \ A \ F N C 3 $ C K B C O 0 0 \ C R

注記	初期値は英語キーボード仕様になっていますので、日本語キーボードをご使用の場合は日本語キーボードに設定する必要があります。 ここでは掲載していない多くの言語をサポートしておりますが、他国の設定を行ないたい場合、弊社マーケティング課までお問い合わせください。

Caps Lock の設定 （PS/2 キーボードウエッジインターフェイスのみ）

バーコードから出力されるデータをあらかじめCaps Lock した状態で出力することができます。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Caps Lock OFF （初期値）	Caps Lock機能の設定＝Caps Lockオフ \ A \ F N C 3 $ C K B C L 0 0 \ C R
Caps Lock ON	Caps Lock機能の設定＝Caps Lockオン \ A \ F N C 3 $ C K B C L 0 1 \ C R
自動 Caps Lock	Caps Lock機能の設定＝自動Caps Lock有効 \ A \ F N C 3 $ C K B C L 0 2 \ C R

Caps Lock OFF　　読み取ったデータをそのまま出力します。

Caps Lock ON　　読み取ったデータを Caps Lock した状態で出力します。

自動 Caps Lock　　この設定は PS/2 キーボードウエッジインターフェイスを選択時のみ有効になります。この設定にした場合は、自動的にキーボード Caps Lock の状態を識別して制御を行います。Codabar(NW7)のスタートストップの小文字・大文字設定についても、影響を受けます。

注記

バーコードリーダの出力データは、バーコードリーダ及びパソコンの Caps Lock 設定に依存します。たとえば、バーコードリーダ側の設定及びパソコンの Caps Lock 設定により、以下のように表示されます。

バーコードリーダの設定	PC のキーボードの設定	バーコードデータ	Codabar のスタートストップ	
			小文字設定	大文字設定
Caps Lock OFF	Caps Lock OFF	小文字→小文字 大文字→大文字	小文字	大文字
Caps Lock ON	Caps Lock OFF	小文字→大文字 大文字→小文字	大文字	小文字
Caps Lock OFF	Caps Lock ON	小文字→大文字 大文字→小文字	大文字	小文字
Caps Lock ON	Caps Lock ON	小文字→小文字 大文字→大文字	小文字	大文字
自動 Caps Lock	Caps Lock OFF	小文字→小文字 大文字→大文字	小文字	大文字
自動 Caps Lock	Caps Lock ON	小文字→大文字 大文字→小文字	大文字	小文字

正確なバーコードデータを入力するためにも、通常はパソコン、バーコードリーダとも CapsLock の設定をしないことをお勧めします。

Num Lock（PS/2 キーボードウエッジインターフェイスのみ）

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Num Lock キー 変更しない （初期値）	NUM Lock機能の設定＝無変換 \ A \ F N C 3 $ C K B N L 0 0 \ C R
Num Lock キー トグル変更する	NUM Lock機能の設定＝トグル \ A \ F N C 3 $ C K B N L 0 1 \ C R

注記	この設定はキーボードウエッジインターフェイス(P/S)選択時に有効になります。「変更しない」設定にした場合は、バーコードリーダが読み取りデータ送信時にPC のキーボードで設定されているNum Lock キーの設定状態を変更せずに送信します。「変更する」に設定した場合は、バーコードリーダが読み取りデータ送信時にPC のキーボードで設定されているNum Lock キーの設定状態を反転させて、送信終了後は元の状態に戻します。

キャラクタ間ディレー時間/コード間ディレー時間/キーボード切り替え時間

キャラクタ間、コード間、キーボード切り替え時間の遅延時間を設定します。
設定の順番は、設定の開始と終了→以下のそれぞれの設定バーコード→付録 C.の「キーパッド」から数字のバーコードを 2 桁入力→設定の開始と終了　となります。
キャラクタ間ディレー時間の設定範囲は 0 ～ 990msec まで 10msec 単位で設定可能です。
コード間ディレー時間の設定範囲は 0 ～ 99second まで 1 秒単位で設定可能です。
キーボード切り替え時間の設定範囲は 0 ～ 990msec まで 10msec 単位で設定可能です。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
キャラクタ間ディレー 時間の設定 （初期値=00）	キャラクタ間ディレー時間の設定 \ A \ F N C 3 $ C R 2 I C

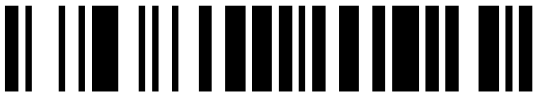
コード間ディレー 時間の設定 （初期値=00）	**コード間ディレー時間の設定** \ A \ F N C 3 $ C K B I D
Wedge Quiet Interval の設定 （初期値=10）	**Wedge Quite Intervalの設定** \ A \ F N C 3 $ C K B Q I

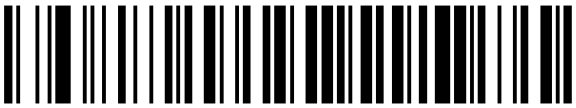
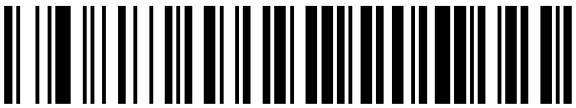
補足	**バーコードリーダがデータをホストに送信するための一連のキーボード接続ルーチンの中で、バーコードリーダがキーボードから切り離すまでの時間の設定が Wedge Quite Interval となります。 PS/2 はすべての機器との接続を保証するインターフェイスではありませんので、パソコン固有の原因、相性等により、バーコードリーダが動作しない場合がありますが、例えば、バーコードデータ欠けが発生したり、ホストからブザー音が聞こえ、オーバーフローが生じる場合、Wedge Quite Interval は効果的な設定で、遅延を与えることで問題回避できる場合があります。 キャラクタ間ディレー、コード間ディレーも有効ですが、入力が遅くなるので運用に差し支えが生じる場合もありますので、アプリケーションにあったディレー値を選択してください。 ノート PC の場合、Wedge Quite Interval の値を逆に早めると有効な場合があります。データ入力できない場合、初期値が 10 なので、順に値を下げて試してみてください。**
注記	**Wedge Quite Interval はキーボードウエッジインターフェイス(P/S)を選択時のみ有効になります。**

0 \ A \ F N C 3 0	**1** \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	**3** \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	**5** \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	**7** \ A \ F N C 3 7

8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル	キャンセル \ A \ F N C 3 ~

USB キーボード ポーリングスピード

設定の開始と終了	設定の開始と終了  \ A \ F N C 3 $ P ,
USB キーボードスピード= 1ms （初期値）	USBキーボードポーリングレート＝1ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 1 \ C R
USB キーボードスピード= 2ms	USBキーボードポーリングレート＝2ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 2 \ C R
USB キーボードスピード= 3ms	USBキーボードポーリングレート＝3ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 3 \ C R
USB キーボードスピード= 4ms	USBキーボードポーリングレート＝4ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 4 \ C R
USB キーボードスピード= 5ms	USBキーボードポーリングレート＝5ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 5 \ C R
USB キーボードスピード= 6ms	USBキーボードポーリングレート＝6ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 6 \ C R

USB キーボードスピード= 7ms	USBキーボードポーリングレート＝7ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 7 \ C R
USB キーボードスピード= 8ms	USBキーボードポーリングレート＝8ms  \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 8 \ C R
USB キーボードスピード= 9ms	USBキーボードポーリングレート＝9ms  \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 9 \ C R
USB キーボードスピード= 10ms	USBキーボードポーリングレート＝10ms \ A \ F N C 3 $ C K B S P 0 A \ C R

補足	USB キーボードインターフェイスにおいて、特に旧型の PC と接続する場合、バーコードデータ欠けが発生することがあります。 この時に USB キーボードポーリングスピードのパラメータが有効で、1ms ごとに落としていくと、適正値が分かります。

USB サスペンド機能の設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
USB サスペンドモード= 無効 （初期値）	USBサスペンド機能の設定=無効 \ A \ F N C 3 $ C U S S E 0 0 \ C R
USB サスペンドモード= 有効	USBサスペンド機能の設定=有効 \ A \ F N C 3 $ C U S S E 0 1 \ C R

3. RS-232, USB-COM 設定

インターフェイスの選択

RS232C インターフェイス ダイレクト設定可	RS232Cインターフェイス \ A \ F N C 3 $ P , H A 0 5 , P \ C R
USB-COM インターフェイス ダイレクト設定可	USB-COMインターフェイス \ A \ F N C 3 $ P , H A 4 7 , P \ C R

注記 USB-COM インターフェイスは別途ドライバーソフトが必要です。 ドライバーソフトと動作環境につきましては、ご購入された販売店もしくは弊社担当窓口までお問合せ下さい。 環境により動作しない場合もありますので、必ず動作確認を行うようにお願いします。

ホストコマンドの受信選択

ホストコマンド受信可 （初期値） ダイレクト設定可	ホストコマンド受信可 \ A \ F N C 3 $ P , C I F I H 0 0 , P \ C R
ホストコマンド受信禁止 ダイレクト設定可	ホストコマンド受信禁止 \ A \ F N C 3 $ P , C I F I H 0 1 , P \ C R

注記 弊社固定式バーコードリーダとのパススルー設定時には、ホストコマンド受信禁止の設定を行なって下さい。

通信ボーレート (RS232 のみ設定可能)

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
1200bps	通信ボーレート＝1200bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 0 \ C R

2400bps	通信ボーレート＝2400bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 1 \ C R
4800bps	通信ボーレート＝4800bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 2 \ C R
9600bps （初期値）	通信ボーレート＝9600bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 3 \ C R
19200bps	通信ボーレート＝19200bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 4 \ C R
38400bps	通信ボーレート＝38400bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 5 \ C R
57600bps	通信ボーレート＝57600bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 6 \ C R
115200bps	通信ボーレート＝115200bps \ A \ F N C 3 $ C R 2 B A 0 7 \ C R

パリティ（RS232 のみ設定可能）

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,

パリティなし （初期値）	**パリティ＝なし** \ A \ F N C 3 $ C R 2 P A 0 0 \ C R
偶数(EVEN)パリティ	**パリティ＝偶数** \ A \ F N C 3 $ C R 2 P A 0 1 \ C R
奇数(ODD)パリティ	**パリティ＝奇数** \ A \ F N C 3 $ C R 2 P A 0 2 \ C R

データビット（RS232 のみ設定可能）

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
7ビット	**データビット長=7** \ A \ F N C 3 $ C R 2 D A 0 0 \ C R
8ビット （初期値）	**データビット長=8** \ A \ F N C 3 $ C R 2 D A 0 1 \ C R

ストップビット（RS232 のみ設定可能）

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
1ビット （初期値）	**ストップビット長＝1** \ A \ F N C 3 $ C R 2 S T 0 0 \ C R

2ビット	ストップビット長=2 \ A \ F N C 3 $ C R 2 S T 0 1 \ C R

ハンドシェイク (RS232 のみ設定可能)

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
RTS (初期値)	ハンドシェイク設定＝RTS \ A \ F N C 3 $ C R 2 H C 0 0 \ C R
RTS/CTS	ハンドシェイク設定＝RTS/CTS \ A \ F N C 3 $ C R 2 H C 0 1 \ C R
RTS/XON/XOFF	ハンドシェイク設定＝RTS/XON/XOFF \ A \ F N C 3 $ C R 2 H C 0 2 \ C R
RTS On/CTS	ハンドシェイク設定＝RTS On/CTS \ A \ F N C 3 $ C R 2 H C 0 3 \ C R
RTS/CTS Scan Control	ハンドシェイク設定＝RTS/CTS スキャンコントロール \ A \ F N C 3 $ C R 2 H C 0 4 \ C R

RTS: データ送信時に、RTS 信号が High(ON)となり、CTS 信号は無視されます。
通信に関する手順はありませんので、バーコードを読み取ると順次データを送信します。

RTS/CTS の手順:
① バーコードリーダはデータ送信時、RTS 線をHigh(ON)にしてデータ送信を要求します。
② CTS 線がHigh(ON)であれば、バーコードリーダはデータ送信を開始します。
③ もしCTS 線がLow(OFF)になれば、バーコードリーダはデータ送信を中断します。(*1)
④ CTS 線が再びHigh(ON)になれば、バーコードリーダはデータ送信を再開します。

RTS/XON/XOFF:
この設定はバーコードリーダと接続機器間で以下の様な通信制御が可能となります。
①バーコードリーダがデータ送信中にXOFF(13hex)キャラクタを受信すると、データの送信を 中断します。(*1)
②バーコードリーダはXON(11hex) キャラクタを受信すると、 データ送信を再開します。

RTS On/CTS:
① バーコードリーダ起動時、RTS 線は常時High(ON)となりデータ送信を要求します。
② CTS 線がHigh(ON)であれば、バーコードリーダはデータ送信を開始します。
③ もしCTS 線がLow(OFF)になれば、バーコードリーダはデータ送信を中断します。(*1)
④ CTS 線が再びHigh(ON)になれば、バーコードリーダはデータ送信を再開します。

注記	(*1) データ送信中断時、バーコードリーダはバーコードの読み取りができない状態になりますので、注意が必要です。

キャラクタ間ディレー時間の設定 (RS232, USB-COM 設定可能)
キャラクタ間の遅延時間を設定します。ホスト側で受信処理が遅い場合でも確実に受信を行なうための機能です。
設定の順番は、設定の開始と終了→キャラクタ間ディレー時間設定→付録 C.の「キーパッド」から数字のバーコードを 2 桁入力→設定の開始と終了 となります。
設定範囲は 0 ～ 990msec まで 10msec 単位で設定可能です。
例) 00 → 0msec (初期値)
15 → 150msec
85 → 850msec

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
キャラクタ間ディレー時間の設定	キャラクタ間ディレー時間の設定 \ A \ F N C 3 $ C R 2 I C

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3

4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル	キャンセル \ A \ F N C 3 ~

ACK NAK (RS232, USB-COM 設定可能)

ACK/NAK プロトコル機能を設定すると、バーコードリーダとホストの相互間において、以下それぞれの設定を指定します。

ホスト側が読み取りデータを正しく受信した場合は、バーコードリーダに ACK(06hex)を送信。

ホスト側が読み取りデータを正しく受信できなかった場合は、NAK(15hex)を送信。

データ送信時　ACK/NAK 有効:　バーコードデータ送信時、ホストからの応答を待ちます。

ホストコマンド応答時　ACK/NAK 有効:　ホストからのコマンド受信時、ACK/NAK で応答します。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
ACK/NAK 無効 (初期値)	ACK/NAKプロトコルの設定＝ACK/NAK無効 \ A \ F N C 3 $ C R 2 A E 0 0 \ C R
データ送信時 ACK/NAK 有効	ACK/NAKプロトコルの設定＝データ送信時有効 \ A \ F N C 3 $ C R 2 A E 0 1 \ C R

ホストコマンド応答時 ACK/NAK 有効	**ACK/NAKプロトコルの設定 ホストコマンド応答時有効** \ A \ F N C 3 $ C R 2 A E 0 2 \ C R
データ送信/ホストコマンド 応答時 ACK/NAK 有効	**ACK/NAKプロトコルの設定＝ラベル送信時、ホストコマンド応答時有効** \ A \ F N C 3 $ C R 2 A E 0 3 \ C R

ACK キャラクタ(RS232, USB-COM 設定可能)

ACK キャラクタを設定します。
設定の順番は、設定の開始と終了→ACK キャラクタの設定→付録 D の「ASCII チャート」に記載されているキャラクタに対応した付録 C.の「キーパッド」を用いて Hex. No の数字のバーコードを 2 桁入力→設定の開始と終了 となります。
例) 06 → ACK (初期値)
24 → $

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
ACK キャラクタの設定	**ACKキャラクタの設定** \ A \ F N C 3 $ C R 2 A C

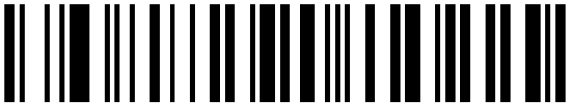
NAK キャラクタ(RS232, USB-COM 設定可能)

NAK キャラクタを設定します。
設定の順番は、設定の開始と終了→NAC キャラクタの設定→付録 D の「ASCII チャート」に記載されているキャラクタに対応した付録 C.の「キーパッド」を用いて Hex. No の数字のバーコードを 2 桁入力→設定の開始と終了 となります。
例) 15 → NAK (初期値)
3E → >

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
NAK キャラクタの設定	**NAKキャラクタの設定** \ A \ F N C 3 $ C R 2 N A

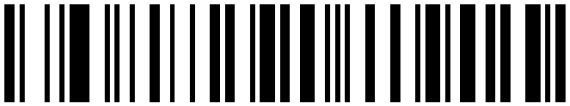
ACK NAK タイムアウト (RS232, USB-COM 設定可能)

ACK NAK タイムアウト時間を設定します。
設定の順番は、設定の開始と終了→ACK/NAK タイムアウト時間の設定→付録 C.の「キーパッド」から数字のバーコードを 2 桁入力→設定の開始と終了　となります。
設定範囲は 0.2～15.0sec まで 0.2sec 単位で設定可能です。
例)　00 → タイムアウト無効
　　01 → 0.2sec(初期値)
　　05 → 1.0sec
　　26 → 5.2sec
　　75 → 15sec(最大値)

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
ACK/NAK タイムアウト時間の設定	ACK NAKタイムアウト時間設定  \ A \ F N C 3 $ C R 2 A T

ACK NAK リトライ回数 (RS232, USB-COM 設定可能)

ACK NAK リトライ回数を設定します。
設定の順番は、設定の開始と終了→ACK/NAK リトライ回数の設定→付録 C.の「キーパッド」から数字のバーコードを 3 桁入力→設定の開始と終了　となります。
設定範囲は 0 ～ 254 回及び無制限まで設定可能です。
例)　000 → 0 回
　　003 → 3 回 (初期値)
　　255 → 無制限

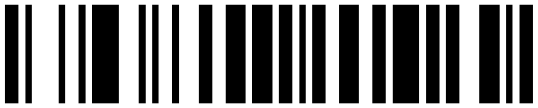
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
ACK/NAK リトライ回数の設定	ACK NAKリトライカウント設定  \ A \ F N C 3 $ C R 2 A R

有効／無効コマンド設定 (RS232, USB-COM 設定可能)

バーコードリーダの有効／無効コマンドキャラクタを設定します。

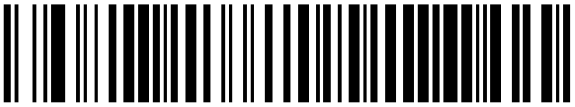
設定の順番は、設定の開始と終了→以下のそれぞれの設定バーコード→付録 D の「ASCII チャート」に記載されているキャラクタに対応した付録 C.の「キーパッド」を用いて Hex. No の数字のバーコードを 2 桁入力→設定の開始と終了　となります。

例)　45 → E(有効の初期値)
　　44 → D(無効の初期値)

設定の開始と終了	**設定の開始と終了**  \ A \ F N C 3 $ P ,
バーコードリーダの 有効コマンドの設定 （初期値は E）	**スキャナ読み取り有効コマンドの設定** \ A \ F N C 3 $ C R 2 E C
バーコードリーダの 無効コマンドの設定 （初期値は D）	**スキャナ読み取り無効コマンドの設定** \ A \ F N C 3 $ C R 2 D C

4. ペンエミュレーションインターフェイス

インターフェイスの選択

ペンエミュレーション インターフェイスの選択	**ペンエミュレーションインターフェイスの選択**  \ A\ F N C 3 $ P , H A 2 4 , P\ C R

信号レベルの設定

出力信号 スペース:低、黒バー:高	**出力信号＝スペース:高、黒バー:低** \ A\ F N C 3 $ P , C W A P O 0 0 , P\ C R
出力信号 スペース:高、黒バー:低 （初期値）	**出力信号＝スペース:低、黒バー:高** \ A\ F N C 3 $ P , C W A P O 0 1 , P\ C R

信号速度の設定

330 microsecond	**Wand信号速度＝330ms** \ A\ F N C 3 $ P , C W A S P 0 0 , P\ C R
660 microsecond （初期値）	**Wand信号速度＝660ms** \ A\ F N C 3 $ P , C W A S P 0 1 , P\ C R

アイドル信号の設定

アイドル時の出力信号レベル=低 （初期値） TTL レベル 0V≦低≦0.7V	**アイドル時の出力信号レベル＝低** \ A\ F N C 3 $ P , C W A I D 0 0 , P\ C R
アイドル時の出力信号レベル=高 TTL レベル 2.4V≦低≦5.25V	**アイドル時の出力信号レベル＝高** \ A\ F N C 3 $ P , C W A I D 0 1 , P\ C R

5. 機能設定

2度読み防止時間

同一バーコードの2度読み防止をする時間の設定をします。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
0.2sec	2度読み防止時間=0.2sec \ A \ F N C 3 $ C S N D R 1 4 \ C R
0.4sec （初期値）	2度読み防止時間=0.4sec \ A \ F N C 3 $ C S N D R 2 8 \ C R
0.6sec	2度読み防止時間=0.6sec \ A \ F N C 3 $ C S N D R 3 C \ C R
0.8sec	2度読み防止時間=0.8sec \ A \ F N C 3 $ C S N D R 5 0 \ C R
1sec	2度読み防止時間=1sec \ A \ F N C 3 $ C S N D R 6 4 \ C R

注記	2度読み防止時間のカウント開始は、1度読み込んだバーコードが赤色LED光からいったん離れた時となります。 同じデータのバーコードを読み取る場合は、1つ目のバーコードからLED光あるいはレーザ光を離して、2 度読み防止時間で設定した時間が経過した後に読み取らせてください。

読み取り動作後のタイムアウト設定

最後の読み取り動作を行なった後、新たなバーコードの読み取りを開始するまでの時間を設定します。
設定の順番は、設定の開始と終了→Label Gone Timeout の設定→付録 C.の「キーパッド」から数字のバーコードを 3 桁入力→設定の開始と終了 となります。
設定範囲は 0 ～ 2.55 秒となり、10ms 単位で設定可能です。

例）	数字キーパッドの読み取り		タイムアウト
	000	→	0 秒（最小値）
	005	→	50ms
	016	→	160ms（初期値）
	255	→	2.55 秒（最大値）

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
読み取り動作後のタイムアウト時間の設定	Label Gone Timeoutの設定 \ A \ F N C 3 $ C S N L G

電源起動時の通知

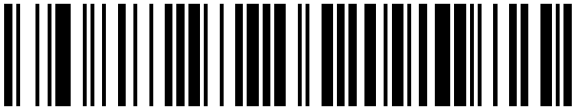
電源投入後、操作可能状態になった際のブザー音の設定が可能です。 有効な場合、4 回のブザー音が鳴ります。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
電源起動時のブザー音通知=無効	Power on Alert=無効 \ A \ F N C 3 $ C B P P U 0 0 \ C R
電源起動時のブザー音通知=有効（初期値）	Power on Alert=有効 \ A \ F N C 3 $ C B P P U 0 1 \ C R

補足	静かな環境であることを要求される空間、例えば、図書館や病院等でのご使用は、ブザー音の設定を消音にすることが要求されますが、電源起動時のブザー音も無効にしておくことをお勧めします。

スリープモードタイムアウト設定

この機能は、バーコードを読み取った後、スリープモードに移るまでの時間を選択します。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
スリープモード 無効 （初期値）	スリープモード=無効 \ A \ F N C 3 $ C S L T O 0 0 \ C R
スリープモード 2 秒	スリープモード=2秒 \ A \ F N C 3 $ C S L T O 1 4 \ C R
スリープモード 4 秒	スリープモード=4秒  \ A \ F N C 3 $ C S L T O 2 8 \ C R
スリープモード 6 秒	スリープモード=6秒 \ A \ F N C 3 $ C S L T O 3 C C \ C R
スリープモード 8 秒	スリープモード=8秒 \ A \ F N C 3 $ C S L T O 5 0 \ C R
スリープモード 10 秒	スリープモード=10秒 \ A \ F N C 3 $ C S L T O 0 A \ C R

読み取り LED 表示タイミング

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
読み取り表示 デコード後	**読み取り表示=デコード後** \ A \ F N C 3 $ C S N D R 1 4 \ C R
読み取り表示 読み取りデータ送信後	**読み取り表示=読み取りデータ送信後** \ A \ F N C 3 C S N D R 2 8 \ C R

読み取り確認 LED 表示

読み取り確認後の本体緑色 LED 表示時間を設定します。
設定の順番は、設定の開始と終了→読み取り確認 LED 時間の設定→付録 C の「キーパッド」を用いて 3 桁の数値を入力→設定の開始と終了　となります。
設定範囲は 0.1～25.5sec　100ms 単位で設定可能です。 または、トリガーを引くまで表示が設定可能です。

例）	数字キーパッドの読み取り		読み取り確認 LED の表示時間
	000	→	次のトリガーを引くまで表示
	002	→	20ms
	020	→	200ms（初期値）
	255	→	2.55 秒（最大値）

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
読み取り確認 LED 時間の設定	**読み取り確認LED表示時間の設定** \ A \ F N C 3 $ C L A G L

グッドリード読み取りブザー音の設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
音の種類=シングル （初期値）	Good Readブザー音タイプ=シングル \ A \ F N C 3 $ C B P T Y 0 0 \ C R
音の種類=ダブル	Good Readブザー音タイプ=ダブル \ A \ F N C 3 $ C B P T Y 0 1 \ C R
音程=低	Good Readブザー音程＝低 \ A \ F N C 3 $ C B P F R 0 0 \ C R
音程=中	Good Readブザー音程＝中 \ A \ F N C 3 $ C B P F R 0 1 \ C R
音程=大	Good Readブザー音程＝大 \ A \ F N C 3 $ C B P F R 0 2 \ C R
音長=60ms	Good Readブザー音長＝60ms \ A \ F N C 3 $ C B P L E 0 6 \ C R
音長=80ms	Good Readブザー音長=80ms \ A \ F N C 3 $ C B P L E 0 8 \ C R

音長=200ms	Good Readブザー音の長さ＝200ms \ A \ F N C 3 $ C B P L E 1 4 \ C R
音量=なし	Good Readブザー音量＝オフ \ A \ F N C 3 $ C B P V O 0 0 \ C R
音量=低	Good Readブザー音量＝低 \ A \ F N C 3 $ C B P V O 0 1 \ C R
音量=中	Good Readブザー音量＝中 \ A \ F N C 3 $ C B P V O 0 2 \ C R
音量=大	Good Readブザー音量＝高 \ A \ F N C 3 $ C B P V O 0 3 \ C R

読み取りモード設定

スキャナの読み取りモードを設定します。

標準トリガー：一般的なハンドヘルドスキャナの操作となります。 トリガーを引き、下記状態になるまで読み取り可能になります。

-約 5 秒間経過したとき

-バーコードを読み取ったとき

-トリガーを放したとき

トリガーホールド(レベルモード)：トリガーを引いている間はバーコードを複数回読み取り可能です。但し、約 5 秒間読み取りがないと OFF となります。 2 度読み防止時間が有効となります。

トリガーパルスモード：バーコードリーダは最初にトリガースイッチを押すと、読み取り状態となりトリガースイッチをOFF にしても、その状態が継続します。再度トリガースイッチを押すか、スキャニング有効時間を越えるまでは待機状態が継続します。

フラッシュ：トリガーの状態にかかわらず、読み取り LED が自動発行され、フラッシュの ON OFF を繰り返します。 フラッシュ ON/OFF 時間の設定も可能です。ON の初期値が 1 秒。 OFF の初期値が 0.6 秒となります。

常時 ON：トリガーを引くことなく常時 ON となります。2 度読み防止時間が有効となります。

スタンドモード：トリガーを引くことなくバーコードを近づけたときに自動的にバーコードを読み取ります。読み取りがない時は緑色スポット ON となります。この状態でトリガーを引いたときは、標準トリガーと同様の機能となります。

バーコード検知モード：スタンドモードと似ていますが、異なる点はトリガーを引いて初めて読み取りが可能となります。例えば、右のバーコードサンプル例は、バーコードが隣接しており、狙ってバーコードを読み取らせる場合、赤色 LED が照準の役目をします。 読ませたいバーコードをターゲットにでき、そこで初めてトリガーを引いて、バーコードを狙い読みすることが可能となり、大変便利な機能となります。

標準トリガー （初期値）	**スキャンモード=標準トリガー** \ A\ F N C 3 $ P , C S N R M 0 0 , P\ C R
トリガーホールド	**スキャンモード＝トリガーホールド** \ A\ F N C 3 $ P , C S N R M 0 1 , P\ C R
トリガーパルス	**スキャンモード＝トリガモードパルス** \ A\ F N C 3 $ P , C S N R M 0 2 , P\ C R
フラッシュ	**スキャンモード＝フラッシュ** \ A\ F N C 3 $ P , C S N R M 0 3 , P\ C R
常時 ON	**スキャンモード＝Always On** \ A\ F N C 3 $ P , C S N R M 0 4 , P\ C R
スタンドモード ＊ Gryphon L GD4330 では使用出来ません。 ＊ この設定を行うと、次のページのスタンド検知の設定も確認願います。	**スキャンモード＝スタンド** \ A\ F N C 3 $ P , C S N R M 0 5 , P\ C R
バーコード検知モード ＊Gryphon L GD4330 および Gryphon2D（GD4400 シリーズ）では使用出来ません。	**スキャンモード＝バーコード検知** \ A\ F N C 3 $ P , C S N R M 0 6 , P\ C R

注記	GRYPHON 2D(GD4400シリーズ)の場合、スタンドモードはスタンドが静止状態でないと、モーションセンサーが働き、読み込めない場合があります。振動がある場所では、読み取りモードを“常時ON”で設定する事をお勧めします。

スタンド検知の設定

対象機種:GD4130-WH(BK)のみ

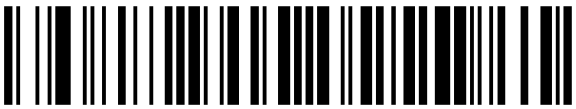
スタンド検知無効	スタンド検知=無効 \ A\ F N C 3 $ P , C S M S D 0 0 , P\ C R
スタンド検知有効 バーコード検知モード （初期値）	スタンド検知=有効、バーコード検知モード \ A\ F N C 3 $ P , C S M S D 0 1 , P\ C R
スタンド検知有効 常時 ON	スタンド検知=有効、Always ON \ A\ F N C 3 $ P , C S M S D 0 2 , P\ C R
スタンド検知有効 フラッシュ	スタンド検知=有効、フラッシュ \ A\ F N C 3 $ P , C S M S D 0 3 , P\ C R

注記	スタンド検出有効の場合、スタンドに内蔵されている磁石を、GD4130-WH(BK)に内蔵されるセンサで確認して、スタンドモードとなり、自動的にバーコードを読み取りします。そのため、GD4130-WH(BK)の近くに磁石などの強い磁性体を近づけると、自動読み取りとなる場合があります。

スタンドモードトリガータイムアウト設定

この設定はスキャンモードがスタンドモードのみ有効となります。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
0.5sec （初期値）	スタンドモードトリガタイムアウト＝0.5秒 \ A \ F N C 3 $ C S N O T 0 1 \ C R
1.5sec	スタンドモードトリガタイムアウト＝1.5秒 \ A \ F N C 3 $ C S N O T 0 3 \ C R

2.0sec	スタンドモードトリガタイムアウト＝2秒 \ A \ F N C 3 $ C S N O T 0 4 \ C R
3.0sec	スタンドモードトリガタイムアウト＝3秒 \ A \ F N C 3 $ C S N O T 0 6 \ C R
4.0sec	スタンドモードトリガタイムアウト＝4秒 \ A \ F N C 3 $ C S N O T 0 8 \ C R
6.0sec	スタンドモードトリガタイムアウト＝6秒 \ A \ F N C 3 $ C S N O T 0 C \ C R
8.0sec	スタンドモードトリガタイムアウト＝8秒 \ A \ F N C 3 $ C S N O T 1 0 \ C R
トリガーを引くとスタンドモードからトリガーモードに更新されます	ｽﾀﾝﾄﾞﾓｰﾄﾞﾄﾘｶﾞｰﾀｲﾑｱｳﾄ＝ﾄﾘｶﾞを引くとｼﾝｸﾞﾙﾓｰﾄﾞへ  \ A \ F N C 3 $ C S N O T 0 0 \ C R

スキャニング有効時間(Scanning ActiveTime)の設定

読み取り有効時間の設定を行ないます。
設定の順番は、設定の開始と終了→スキャニング有効時間の設定→付録 C の「キーパッド」を用いて3桁の数値を入力→設定の開始と終了　となります。
設定範囲は 1～255 秒　1 秒単位で設定可能です。

例)	数字キーパッドの読み取り		読み取り有効時間
	001	→	1 秒
	005	→	5 秒(初期値)
	255	→	255 秒(最大値)

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,

スキャニング有効時間の設定	Scanning Active time 設定 \ A \ F N C 3 $ C S N E T

フラッシュ ON/OFF 有効時間の設定

フラッシュモード時における、読み取り LED の ON 時間 OFF 時間の設定を行ないます。
設定の順番は、設定の開始と終了→以下のそれぞれの設定バーコード→付録 C の「キーパッド」を用いて 2 桁の数値を入力→設定の開始と終了 となります。
設定範囲は 1～255 秒 0.1 秒単位で設定可能です。

例）	数字キーパッドの読み取り		フラッシュ ON/OFF 時間
	01	→	0.1 秒（フラッシュ ON/OFF 時間の最小値）
	10	→	10 秒（フラッシュ ON 時間の初期値）
	06	→	06 秒（フラッシュ OFF 時間の初期値）
	90	→	90 秒（フラッシュ ON/OFF 時間の最大値）

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
フラッシュ ON 有効時間の設定	フラッシュON 有効時間の設定 \ A \ F N C 3 $ C S N F N
フラッシュ OFF 有効時間の設定	フラッシュOFF 有効時間の設定 \ A \ F N C 3 $ C S N F F

グリーンスポット表示

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
グリーンスポット出力時間 =無効	**グリーンスポット点灯時間＝無効** \ A \ F N C 3 $ C L S S P 0 0 \ C R
グリーンスポット出力時間 =300ms （初期値）	**グリーンスポット点灯時間＝短（300 msec）** \ A \ F N C 3 $ C L S S P 0 1 \ C R
グリーンスポット出力時間 =500ms	**グリーンスポット光照射時間＝中（500 msec）** \ A \ F N C 3 $ C L S S P 0 2 \ C R
グリーンスポット出力時間 =800ms	**グリーンスポット光照射時間＝長（800 msec）** \ A \ F N C 3 $ C L S S P 0 3 \ C R

6. 1 次元バーコード設定

読み取り可能なバーコードについて

スキャナが読み取り可能なバーコード種類は、以下のものになります。
EAN (JAN)/UPC (アドオンコード対応)
Code128
GS-128
Interleaved 2 of 5 (I 2 of 5)
Codabar (NW7)
Code 93
GS1 DataBar　GS1 DataBar Omnidirectional、GS1 DataBar Stacked、GS1 DataBar Stacked Omnidirectional、GS1 DataBar Truncated、GS1 DataBar Limited、GS1 DataBar Expanded、GS1 DataBar Expanded Stacked

補足	上記のバーコード以外に、Standard 2 OF 5、Industrial 2 of 5、Code 11、MSI、Plessey の読み取りが可能ですが、本バーコードメニューシートにはそれらの登録設定バーコードを掲載しておりません。読ませたいご要望がありましたら本社マーケティング課までお問い合わせ願います。

デコード一致回数の設定について

デコード回数を増やすことで、誤読防止となり、読み取り性能が高くなります。各バーコードにおいて設定が可能です。

デコード厳格レベルの設定について

デコードルーチンの精度(レベル)を調整することが可能です。
レベル1:品質の悪いバーコードは読めなくなる方向となります。
レベル3:初期値となります。
レベル5:品質の悪いバーコードでも読み取り易くなりますが、同時に誤読する率も高くなります。

反転バーコードの読み取り設定について

通常、バーコードは白いスペースに黒いバーで印字されますが、黒いスペースに白いバーで印字されているケースもありますので、この設定も本バーコードメニューシートで用意されております。反転バーコードを読み取る場合は、反転バーコードの設定を有効にすると、反転バーコードが読みやすくなります。

バーコード桁数の設定について

バーコードを読み取りための条件として、桁数制限をかけることが可能です。初期値はどのバーコードも可変長のバーコードを読む取ることができますが、バーコードの種類によって、桁数の範囲がことなります。

桁数固定には 2 通り概念がありまして、一つは、1種類の桁固定。 例えば 10 桁のみの固定を行う場合、桁数 1 桁数 2 の設定で同じ数値を登録すると、10 桁のバーコードしか読み取りできません。 もう一つは、2 種類の桁固定。 例えば、10 桁と 20 桁だけを読ませる制限も可能です。同様に、桁数 1 の設定で数字バーコードの 1 と 0 を読ませ、桁数 2 の設定で数字バーコードの 2 と 0 を読ませて完了となります。

ここで、桁数が決まったバーコードは除き、それぞれのバーコードの初期値における読み取り可能な桁数の値及び設定可能な最小最大の桁数を示します。

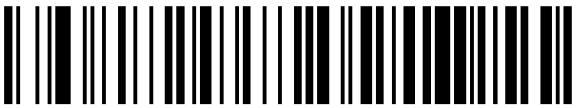
バーコード	初期値		設定可能値	
	最小	最大	最小	最大
CODE39	2 桁	50 桁	1 桁	50 桁
CODE128	1 桁	80 桁	1 桁	80 桁
ITF	6 桁 *1	50 桁 *1	2 桁 *1	50 桁 *1
CODABAR	3 桁 *2	50 桁 *2	3 桁 *1	50 桁 *2
CODE93	1 桁 *3	50 桁 *3	1 桁 *3	50 桁 *3
GS 1 DataBar Expanded	1 桁	74 桁	1 桁	74 桁
Standard 2 of 5	8 桁	50 桁	1 桁	50 桁
Industrial 2 of 5	1 桁	50 桁	1 桁	50 桁
Code 11	4 桁	50 桁	2 桁	50 桁
MSI	1 桁	50 桁	1 桁	50 桁
Plessey	1 桁	50 桁	1 桁	50 桁

注記
チェックデジット送信設定を有効にすると、桁数に含まれます。
*1は、偶数桁数のみ。
*2は、スタートストップキャラクタを含みます。
*3は、チェックデジットを含みます。

補足
上記のバーコード以外に、Standard 2 of 5、Industrial 2 of 5、Code 11、MSI、Plessey の読み取りが可能ですが、本バーコードメニューシートにはそれらの登録設定バーコードを掲載しておりません。読ませたいご要望がありましたら本社マーケティング課までお問い合わせ願います。

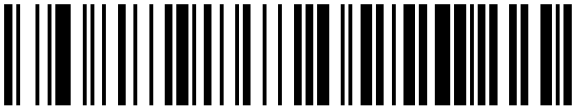
EAN13 (JAN13)

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
EAN13=無効	**EAN13=無効** \ A \ F N C 3 $ C 3 B E N 0 0 \ C R
EAN13=有効 **（初期値）**	**EAN13=有効** \ A \ F N C 3 $ C 3 B E N 0 1 \ C R
EAN13 チェックデジット **送信禁止**	**EAN13チェックデジット送信=送信禁止** \ A \ F N C 3 $ C 3 B C T 0 0 \ C R

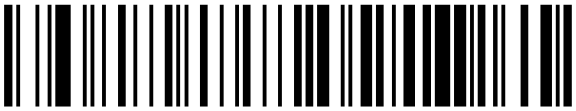
EAN13 チェックデジット 送信許可 （初期値）	EAN13チェックデジット送信=送信許可  \ A \ F N C 3 $ C 3 B C T 0 1 \ C R
EAN13 デコード一致回数 1回(初期値）	EAN13デコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C 3 B M R 0 1 \ C R
EAN13 デコード一致回数 2回	EAN13デコード一致回数＝2 \ A \ F N C 3 $ C 3 B M R 0 2 \ C R
EAN13 デコード一致回数 3 回	EAN13デコード一致回数＝3 \ A \ F N C 3 $ C 3 B M R 0 3 \ C R
EAN13 デコード一致回数 4 回	EAN13デコード一致回数＝4 \ A \ F N C 3 $ C 3 B M R 0 4 \ C R

EAN8

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
EAN8＝無効	EAN8=無効 \ A \ F N C 3 $ C 8 B E N 0 0 \ C R
EAN8＝有効	EAN8=有効 \ A \ F N C 3 $ C 8 B E N 0 1 \ C R

EAN8 チェックデジット 送信禁止	EAN8チェックデジット送信=送信禁止  \ A \ F N C 3 $ C 8 B C T 0 0 \ C R
EAN8 チェックデジット 送信許可	EAN8チェックデジット送信=送信有効 \ A \ F N C 3 $ C 8 B C T 0 1 \ C R
EAN8 から EAN13 に 変換=無効 （初期値）	EAN8をEAN13に変換＝無効 \ A \ F N C 3 $ C 8 B 3 B 0 0 \ C R
EAN8 から EAN13 に 変換=有効	EAN8をEAN13に変換＝有効 \ A \ F N C 3 $ C 8 B 3 B 0 1 \ C R
EAN8 デコード一致回数 1回(初期値）	EAN8デコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C 8 B M R 0 1 \ C R
EAN8 デコード一致回数 2 回	EAN8デコード一致回数＝2 \ A \ F N C 3 $ C 8 B M R 0 2 \ C R
EAN8 デコード一致回数 3 回	EAN8デコード一致回数＝3 \ A \ F N C 3 $ C 8 B M R 0 3 \ C R
EAN8 デコード一致回数 4 回	EAN8デコード一致回数＝4 \ A \ F N C 3 $ C 8 B M R 0 4 \ C R

UPC-A

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
UPC-A＝無効	UPC-A=無効 \ A \ F N C 3 $ C A B E N 0 0 \ C R
UPC-A＝有効	UPC-A=有効 \ A \ F N C 3 $ C A B E N 0 1 \ C R
UPC-A チェックデジット 送信禁止	UPC-Aチェックデジット送信=送信禁止 \ A \ F N C 3 $ C A B C T 0 0 \ C R
UPC-A チェックデジット 送信許可 （初期値）	UPC-Aチェックデジット送信=送信許可  \ A \ F N C 3 $ C A B C T 0 1 \ C R
UPC-A から EAN13 に 変換＝無効 （初期値）	UPC-AをEAN13に変換＝無効 \ A \ F N C 3 $ C A B 3 B 0 0 \ C R
UPC-A から EAN13 に 変換＝有効	UPC-AをEAN13に変換＝有効 \ A \ F N C 3 $ C A B 3 B 0 1 \ C R
UPC-A デコード一致回数 1回(初期値）	UPC-Aデコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C A B M R 0 1 \ C R

UPC-A デコード一致回数 2 回	UPC-Aデコード一致回数＝2 \ A \ F N C 3 $ C A B M R 0 2 \ C R
UPC-A デコード一致回数 3 回	UPC-Aデコード一致回数＝3 \ A \ F N C 3 $ C A B M R 0 3 \ C R
UPC-A デコード一致回数 4 回	UPC-Aデコード一致回数＝4 \ A \ F N C 3 $ C A B M R 0 4 \ C R

UPC-E

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
UPC-E＝無効	UPC-E=無効 \ A \ F N C 3 $ C E B E N 0 0 \ C R
UPC-E＝有効 （初期値）	UPC-E=有効 \ A \ F N C 3 $ C E B E N 0 1 \ C R
UPC-E チェックデジット 送信禁止	UPC-Eチェックデジット送信=送信禁止 \ A \ F N C 3 $ C E B C T 0 0 \ C R
UPC-E チェックデジット 送信許可 （初期値）	UPC-Eチェックデジット送信=送信許可 \ A \ F N C 3 $ C E B C T 0 1 \ C R

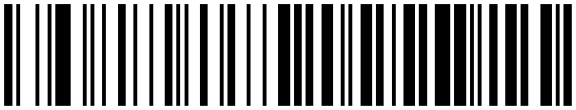
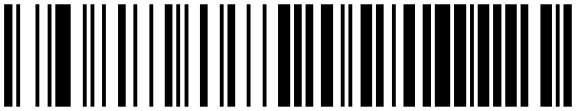
UPC-E から EAN13 に 変換＝無効 （初期値）	UPC-EをEAN13に変換＝無効 \ A \ F N C 3 $ C E B 3 B 0 0 \ C R
UPC-A から EAN13 に 変換＝有効	UPC-EをEAN13に変換＝有効 \ A \ F N C 3 $ C E B 3 B 0 1 \ C R
UPC-E から UPC-A に 変換＝無効 （初期値）	UPC-EをUPC-Aに変換＝無効 \ A \ F N C 3 $ C E B A B 0 0 \ C R
UPC-E から UPC-A に 変換＝有効	UPC-EをUPC-Aに変換＝有効 \ A \ F N C 3 $ C E B A B 0 1 \ C R
UPC-E デコード一致回数 1回	UPC-Eデコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C E B M R 0 1 \ C R
UPC-E デコード一致回数 2 回(初期値）	UPC-Eデコード一致回数＝2 \ A \ F N C 3 $ C E B M R 0 2 \ C R
UPC-E デコード一致回数 3 回	UPC-Eデコード一致回数＝3 \ A \ F N C 3 $ C E B M R 0 3 \ C R
UPC-E デコード一致回数 4 回	UPC-Eデコード一致回数＝4 \ A \ F N C 3 $ C E B M R 0 4 \ C R

GTIN 変換

EAN13、EAN8、UPC-A、UPC-E を GTIN 14 桁の形式に変換の設定をします。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
GTIN 14 桁への変換=無効 （初期値）	GTIN 14桁変換=無効 \ A \ F N C 3 $ C G B E N 0 0 \ C R
GTIN14 桁への変換=有効	GTIN 14桁変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C G B E N 0 1 \ C R

EAN / UPC アドオン

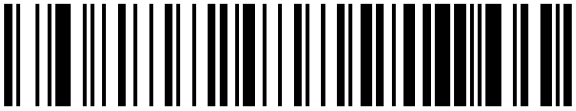
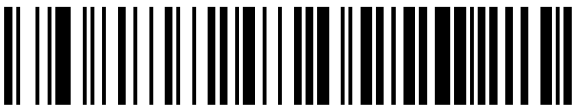
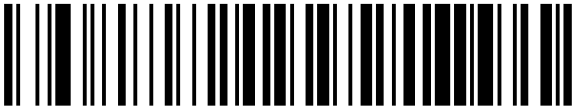
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
アドオン 2 桁=無効 （初期値）	アドオン2桁=無効  \ A \ F N C 3 $ C A D O 2 0 0 \ C R
アドオン 2 桁=有効	アドオン2桁=有効  \ A \ F N C 3 $ C A D O 2 0 1 \ C R
アドオン 5 桁=無効 （初期値）	アドオン5桁=無効 \ A \ F N C 3 $ C A D O 5 0 0 \ C R
アドオン 5 桁=有効	アドオン5桁=有効 \ A \ F N C 3 $ C A D O 5 0 1 \ C R

デコード厳格性レベルの設定(UPC-A, UPC-E, EAN 13)

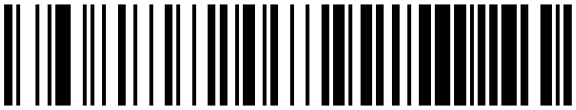
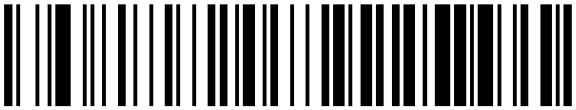
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
UPC/EAN デコード厳格性レベル =1	UPC/EANデコード厳格性レベル=1 \ A \ F N C 3 $ C U N D L 0 1 \ C R
UPC/EAN デコード厳格性レベル =2	UPC/EANデコード厳格性レベル=2 \ A \ F N C 3 $ C U N D L 0 2 \ C R
UPC/EAN デコード厳格性レベル （初期値）	UPC/EANデコード厳格性レベル=3 \ A \ F N C 3 $ C U N D L 0 3 \ C R
UPC/EAN デコード厳格性レベル =4	UPC/EANデコード厳格性レベル=4 \ A \ F N C 3 $ C U N D L 0 4 \ C R
UPC/EAN デコード厳格性レベル =5	UPC/EANデコード厳格性レベル=5 \ A \ F N C 3 $ C U N D L 0 5 \ C R

CODE 39

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
CODE 39＝無効	Code39=無効 \ A \ F N C 3 $ C C 3 E N 0 0 \ C R

CODE 39＝有効 （初期値）	Code39=有効 \ A \ F N C 3 $ C C 3 E N 0 1 \ C R
CODE 39 のチェックデジット 検査しない （初期値）	CODE39チェックデジット=検査しない \ A \ F N C 3 $ C C 3 C C 0 0 \ C R
CODE 39 のチェックデジット 検査する	CODE39チェックデジット=検査する  \ A \ F N C 3 $ C C 3 C C 0 1 \ C R
CODE 39 チェックデジット モジュラス7チェック検査有効	CODE39チェックデジット=Mod7チェック検査有効 \ A \ F N C 3 $ C C 3 C C 0 2 \ C R
CODE 39 チェックデジット 送信=禁止	CODE39チェックデジット送信=禁止  \ A \ F N C 3 $ C C 3 C T 0 0 \ C R
CODE 39 チェックデジット 送信=許可 （初期値）	CODE39チェックデジット送信=許可 \ A \ F N C 3 $ C C 3 C T 0 1 \ C R
CODE 39 スタート・ストップ キャラクタ送信しない （初期値）	CODE39スタート/ストップキャラクタ送信しない \ A \ F N C 3 $ C C 3 S S 0 0 \ C R
CODE 39 スタート・ストップ キャラクタ送信する	CODE39スタート/ストップキャラクタ送信する  \ A \ F N C 3 $ C C 3 S S 0 1 \ C R
CODE 39 Full ASCII 変換 無効 （初期値）	Code39 Full ASCII変換=無効 \ A \ F N C 3 $ C C 3 F A 0 0 \ C R

CODE 39 Full ASCII 変換 有効	Code39 Full ASCII変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C C 3 F A 0 1 \ C R
CODE 39 クワイエットゾーン 片側のみを認識	CODE39クワイエットゾーン=クワイエットゾーン片側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 3 L O 0 1 \ C R
CODE 39 クワイエットゾーン 両側を認識	CODE39クワイエットゾーン=クワイエットゾーン両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 3 L O 0 2 \ C R
CODE 39 クワイエットゾーン 自動認識 （初期値）	CODE39クワイエットゾーン=クワイエットゾーン自動認識 \ A \ F N C 3 $ C C 3 L O 0 3 \ C R
CODE 39 クワイエットゾーン 仮想両側認識	CODE39クワイエットゾーン=クワイエットゾーン仮想両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 3 L O 0 4 \ C R
CODE 39 デコード一致回数 1回 （初期値）	CODE39デコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C C 3 M R 0 1 \ C R
CODE 39 デコード一致回数 2 回	CODE39デコード一致回数＝2 \ A \ F N C 3 $ C C 3 M R 0 2 \ C R
CODE 39 デコード一致回数 3 回	CODE39デコード一致回数＝3 \ A \ F N C 3 $ C C 3 M R 0 3 \ C R

CODE 39 デコード一致回数 4 回	CODE39デコード一致回数＝4 \ A \ F N C 3 $ C C 3 M R 0 4 \ C R
CODE 39 デコード厳格性レベル =1	CODE39デコード厳格性レベル＝1 \ A \ F N C 3 $ C C 3 D L 0 1 \ C R
CODE 39 デコード厳格性レベル =2	CODE39デコード厳格性レベル＝2 \ A \ F N C 3 $ C C 3 D L 0 2 \ C R
CODE 39 デコード厳格性レベル =3 （初期値）	CODE39デコード厳格性レベル＝3 \ A \ F N C 3 $ C C 3 D L 0 3 \ C R
CODE 39 デコード厳格性レベル =4	CODE39デコード厳格性レベル＝4  \ A \ F N C 3 $ C C 3 D L 0 4 \ C R
CODE 39 デコード厳格性レベル =5	CODE39デコード厳格性レベル＝5  \ A \ F N C 3 $ C C 3 D L 0 5 \ C R
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =無効	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=無効 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 0 \ C R

CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =1	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=1 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 1 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =2	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=2 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 2 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =3	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=3 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 3 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =4(初期値)	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=4 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 4 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =5	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=5 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 5 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =6	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=6 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 6 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =7	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=7 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 7 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =8	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=8 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 8 \ C R

CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =9	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=9 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 9 \ C R
CODE39 キャラクタ間ギャップ比率 =10	CODE39キャラクタ間ギャップ比率=10 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I R 0 A \ C R

CODE 39 桁数設定

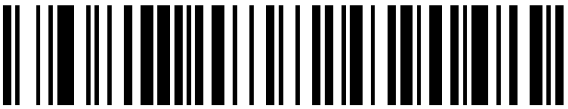
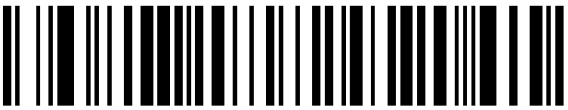
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
CODE 39 桁数=可変長 （初期値）	CODE39桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C C 3 L C 0 0 \ C R
CODE 39 桁数=固定	CODE39桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C C 0 1 \ C R

CODE39 桁数設定　最小最大桁数の設定

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字2桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。

例	設定方法
最小桁数 2	CODE39 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0 と 2 を読ませる。
最大桁数 40	CODE39 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 4 と 0 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

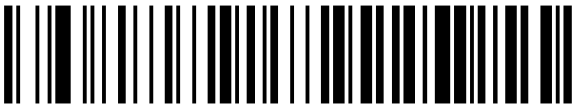
CODE39 桁数 1 の設定 （初期値=02） ダイレクト設定可	CODE39 桁数1の設定  \ A \ F N C 3 $ P , C C 3 L 1
CODE39 桁数 2 の設定 (初期値=50) ダイレクト設定可	CODE39 桁数2の設定  \ A \ F N C 3 $ P , C C 3 L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

CODE 128

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
CODE128=無効	CODE128=無効 \ A \ F N C 3 $ C C 8 E N 0 0 \ C R
CODE128=有効 （初期値）	CODE128=有効 \ A \ F N C 3 $ C C 8 E N 0 1 \ C R
CODE128 チェックデジット 送信=禁止 （初期値）	CODE128チェックデジット送信=禁止 \ A \ F N C 3 $ C C 8 C T 0 0 \ C R
CODE128 チェックデジット 送信=許可	CODE128チェックデジット送信=許可 \ A \ F N C 3 $ C C 8 C T 0 1 \ C R
CODE128 クワイエットゾーン 認識しない	CODE128クワイエットゾーン=認識しない \ A \ F N C 3 $ C C 8 L O 0 0 \ C R
CODE128 クワイエットゾーン 片側認識	CODE128クワイエットゾーン=片側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 8 L O 0 1 \ C R
CODE128 クワイエットゾーン 両側認識	CODE128クワイエットゾーン=両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 8 L O 0 2 \ C R

CODE128 クワイエットゾーン 自動認識 （初期値）	CODE128クワイエットゾーン=自動 \ A \ F N C 3 $ C C 8 L O 0 3 \ C R
CODE128 クワイエットゾーン 仮想両側認識	CODE128クワイエットゾーン=仮想両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 8 L O 0 4 \ C R
CODE128 デコード一致回数 1回 （初期値）	CODE128デコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C C 8 M R 0 1 \ C R
CODE128 デコード一致回数 2 回	CODE128デコード一致回数＝2 \ A \ F N C 3 $ C C 8 M R 0 2 \ C R
CODE128 デコード一致回数 3 回	CODE128デコード一致回数＝3 \ A \ F N C 3 $ C C 8 M R 0 3 \ C R
CODE128 デコード一致回数 4 回	CODE128デコード一致回数＝4 \ A \ F N C 3 $ C C 8 M R 0 4 \ C R
CODE128 デコード厳格性 レベル=1	CODE128デコード厳格性レベル＝1 \ A \ F N C 3 $ C C 8 D L 0 1 \ C R
CODE128 デコード厳格性 レベル=2	CODE128デコード厳格性レベル＝2 \ A \ F N C 3 $ C C 8 D L 0 2 \ C R
CODE128 デコード厳格性 レベル=3 （初期値）	CODE128デコード厳格性レベル＝3 \ A \ F N C 3 $ C C 8 D L 0 3 \ C R

CODE128 デコード厳格性 レベル=4	CODE128デコード厳格性レベル＝4 \ A \ F N C 3 $ C C 8 D L 0 4 \ C R
CODE128 デコード厳格性 レベル=5	CODE128デコード厳格性レベル＝5  \ A \ F N C 3 $ C C 8 D L 0 5 \ C R
CODE128 から CODE39 に 変換=無効 （初期値）	CODE128からCODE39に変換=無効 \ A \ F N C 3 $ C C 8 C 3 0 0 \ C R
CODE128 から CODE39 に 変換=有効	CODE128からCODE39に変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C C 8 C 3 0 1 \ C R

CODE 128 桁数設定

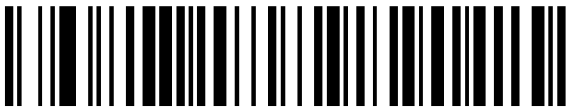
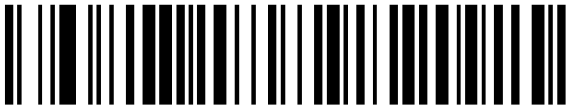
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
CODE 128 桁数=可変長 （初期値）	CODE128桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C C 8 L C 0 0 \ C R
CODE 128 桁数=固定	CODE128桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C C 8 L C 0 1 \ C R

CODE 128 桁数設定　最小最大桁数の設定

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字２桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。

例	設定方法
最小桁数 2	CODE 128 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0 と 2 を読ませる。
最大桁数 50	CODE 128 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 5 と 0 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

CODE 128 桁数 1 の設定 （初期値=01）	CODE128 桁数1の設定  \ A \ F N C 3 $ P , C C 8 L 1
CODE 128 桁数 2 の設定 （初期値=80）	CODE128 桁数2の設定  \ A \ F N C 3 $ P , C C 8 L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

GS1-128

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,

GS1-128 から CODE128 に変換=有効 GS1-128 は CODE128 として送信され、〔FUN1〕は無視されます。	GS1-128からCODE128に変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C U 8 E N 0 0 \ C R
GS1-128=有効 GS1-128 として出力	GS1-128=有効 GS1-128フォーマット出力 \ A \ F N C 3 $ C U 8 E N 0 1 \ C R
CODE128=有効 GS1-128=無効	CODE128=有効 GS1-128=無効 \ A \ F N C 3 $ C U 8 E N 0 2 \ C R

Interleaved 2 of 5 (I 2 OF 5)

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
I 2 of 5=無効 （初期値）	I 2 of 5=無効 \ A \ F N C 3 $ C I 2 E N 0 0 \ C R
I 2 of 5=有効	I 2 of 5=有効 \ A \ F N C 3 $ C I 2 E N 0 1 \ C R
I 2 of 5 のチェックデジット検査しない （初期値）	I 2 of 5チェックデジット=検査しない \ A \ F N C 3 $ C I 2 C C 0 0 \ C R
I 2 of 5 のチェックデジット(Mod10)検査する	I 2 of 5チェックデジット(Mod10)=検査する \ A \ F N C 3 $ C I 2 C C 0 1 \ C R

I 2 of 5 のチェックデジット (Bosch) 検査する	I 2 of 5チェックデジット (ボッシュ_Bosch)=検査する \ A \ F N C 3 $ C I 2 C C 1 0 \ C R
I 2 of 5 のチェックデジット 送信=禁止	I 2 of 5チェックデジット送信=禁止 \ A \ F N C 3 $ C I 2 C T 0 0 \ C R
I 2 of 5 のチェックデジット 送信=許可 （初期値）	I 2 of 5チェックデジット送信=許可 \ A \ F N C 3 $ C I 2 C T 0 1 \ C R
I 2 of 5 デコード一致回数 1回 （初期値）	I 2 of 5デコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C I 2 M R 0 1 \ C R
I 2 of 5 デコード一致回数 2 回	I 2 of 5デコード一致回数＝2 \ A \ F N C 3 $ C I 2 M R 0 2 \ C R
I 2 of 5 デコード一致回数 3 回	I 2 of 5デコード一致回数＝3 \ A \ F N C 3 $ C I 2 M R 0 3 \ C R
I 2 of 5 デコード一致回数 4 回	I 2 of 5デコード一致回数＝4 \ A \ F N C 3 $ C I 2 M R 0 4 \ C R
I 2 of 5 デコード厳格性 レベル=1	I 2 of 5デコード厳格性レベル＝1 \ A \ F N C 3 $ C I 2 D L 0 1 \ C R
I 2 of 5 デコード厳格性 レベル=2	I 2 of 5デコード厳格性レベル＝2 \ A \ F N C 3 $ C I 2 D L 0 2 \ C R

I 2 of 5 デコード厳格性 レベル=3 （初期値）	I 2 of 5デコード厳格性レベル＝3 \ A \ F N C 3 $ C I 2 D L 0 3 \ C R
I 2 of 5 デコード厳格性 レベル=4	I 2 of 5デコード厳格性レベル＝4 \ A \ F N C 3 $ C I 2 D L 0 4 \ C R
I 2 of 5 デコード厳格性 レベル=5	I 2 of 5デコード厳格性レベル＝5 \ A \ F N C 3 $ C I 2 D L 0 5 \ C R

I 2 of 5 桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
I 2 of 5 桁数=可変長 （初期値）	I 2 of 5桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C I 2 L C 0 0 \ C R
I 2 of 5 桁数=固定	I 2 of 5桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C I 2 L C 0 1 \ C R

I 2 OF 5 桁数設定　最小最大桁数の設定

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字2桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。

注）I 2 of5 の場合は偶数桁で入力して下さい。1 の位を奇数で読み込んだ場合は入力を受け付けないので、再度偶数のバーコードを読み取って下さい。

例	設定方法
最小桁数 2	I 2 OF 5 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0 と 2 を読ませる。
最大桁数 40	I 2 OF 5 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 4 と 0 を読ませる。

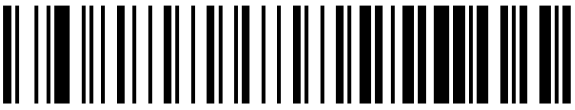
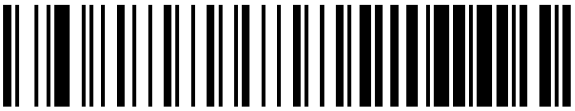
最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

I 2 OF 5 の桁数 1 の設定 （初期値=06）	I 2 of 5 桁数1の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C I 2 L 1
I 2 OF 5 の桁数 2 の設定 （初期値=50）	I 2 of 5 桁数2の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C I 2 L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

Codabar (NW7)

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,

Codabar (NW7) =無効 （初期値）	Codabar(NW7)=無効 \ A \ F N C 3 $ C C B E N 0 0 \ C R
Codabar (NW7) =有効	Codabar(NW7)=有効 \ A \ F N C 3 $ C C B E N 0 1 \ C R
Codabar (NW7) チェックデジット 検査しない （初期値）	Codabar(NW7)チェックデジット=検査しない  \ A \ F N C 3 $ C C B C C 0 0 \ C R
Codabar (NW7) チェックデジット （AIM 標準） 検査する	Codabar(NW7)チェックデジット(AIM標準)=検査する \ A \ F N C 3 $ C C B C C 0 1 \ C R
Codabar (NW7) チェックデジット (Mod10) 検査する	Codabar(NW7)チェックデジット(Mod10)=検査する  \ A \ F N C 3 $ C C B C C 0 2 \ C R
Codabar (NW7) チェックデジット 送信=禁止	Codabar(NW7)チェックデジット送信=禁止 \ A \ F N C 3 $ C C B C T 0 0 \ C R
Codabar (NW7) チェックデジット 送信=許可	Codabar(NW7)チェックデジット送信=許可 \ A \ F N C 3 $ C C B C T 0 1 \ C R
Codabar (NW7) スタートストップ 送信=禁止	Codabar(NW7) スタート/ストップキャラクタ送信=禁止 \ A \ F N C 3 $ C C B S S 0 0 \ C R
Codabar (NW7) スタートストップ 送信=許可 （初期値）	Codabar(NW7) スタート/ストップキャラクタ送信=許可 \ A \ F N C 3 $ C C B S S 0 1 \ C R

Codabar (NW7) スタートストップ 出力キャラクタフォーマット ABCD/TN*E	Codabar(NW7)スタートストップ=ABCD/TN*E \ A \ F N C 3 $ C C B S C 0 0 \ C R
Codabar (NW7) スタートストップ 出力キャラクタフォーマット ABCD/ABCD	Codabar(NW7)スタートストップ=ABCD/ABCD \ A \ F N C 3 $ C C B S C 0 1 \ C R
Codabar (NW7) スタートストップ 出力キャラクタフォーマット abcd/tn*e	Codabar(NW7)スタートストップ=abce/tn*e \ A \ F N C 3 $ C C B S C 0 2 \ C R
Codabar (NW7) スタートストップ 出力キャラクタフォーマット abcd /abcd （初期値）	Codabar(NW7)スタートストップ=abce/abcd \ A \ F N C 3 $ C C B S C 0 3 \ C R
Codabar (NW7) スタートストップ 等価チェック=無効 （初期値）	Codabar(NW7) スタートストップ等価チェック=無効 \ A \ F N C 3 $ C C B S M 0 0 \ C R
Codabar (NW7) スタートストップ 等価チェック=有効	Codabar(NW7) スタートストップ等価チェック=有効 \ A \ F N C 3 $ C C B S M 0 1 \ C R
Codabar (NW7) クワイエットゾーン 片側認識	Codabar (NW7) クワイエットゾーン=片側認識 \ A \ F N C 3 $ C C B L O 0 1 \ C R
Codabar (NW7) クワイエットゾーン 両側認識	Codabar (NW7) クワイエットゾーン=両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C B L O 0 2 \ C R

Codabar (NW7) クワイエットゾーン 自動認識 （初期値）	Codabar (NW7) クワイエットゾーン=自動認識 \ A \ F N C 3 $ C C B L O 0 3 \ C R
Codabar (NW7) クワイエットゾーン 仮想両側認識	Codabar (NW7) クワイエットゾーン=仮想両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C B L O 0 4 \ C R
Codabar (NW7) デコード一致回数 1回 （初期値）	Codabar (NW7) デコード一致回数＝1 \ A \ F N C 3 $ C C B M R 0 1 \ C R
Codabar (NW7) デコード一致回数 2 回	Codabar (NW7) デコード一致回数=2 \ A \ F N C 3 $ C C B M R 0 2 \ C R
Codabar (NW7) デコード一致回数 3 回	Codabar (NW7) デコード一致回数=3 \ A \ F N C 3 $ C C B M R 0 3 \ C R
Codabar (NW7) デコード一致回数 4 回	Codabar (NW7) デコード一致回数=4 \ A \ F N C 3 $ C C B M R 0 4 \ C R
Codabar (NW7) デコード厳格性 レベル=1	Codabar (NW7) デコード厳格性レベル=1 \ A \ F N C 3 $ C C B D L 0 1 \ C R
Codabar (NW7) デコード厳格性 レベル=2	Codabar (NW7) デコード厳格性レベル=2 \ A \ F N C 3 $ C C B D L 0 2 \ C R

Codabar (NW7) デコード厳格性 レベル=3 （初期値）	Codabar (NW7) デコード厳格性レベル=3 \ A \ F N C 3 $ C C B D L 0 3 \ C R
Codabar (NW7) デコード厳格性 レベル=4	Codabar (NW7) デコード厳格性レベル=4 \ A \ F N C 3 $ C C B D L 0 4 \ C R
Codabar (NW7) デコード厳格性 レベル=5	Codabar (NW7) デコード厳格性レベル=5 \ A \ F N C 3 $ C C B D L 0 5 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =無効	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=無効 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 0 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =1	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=1 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 1 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =2	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=2 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 2 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =3	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=3 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 3 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =4 （初期値）	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=4 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 4 \ C R

Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =5	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=5 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 5 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =6	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=6 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 6 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =7	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=7 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 7 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =8	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=8 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 8 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =9	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=9 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 9 \ C R
Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率 =10	Codabar (NW7) キャラクタ間ギャップ比率=10 \ A \ F N C 3 $ C C B I R 0 A \ C R

Codabar (NW7) 桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Codabar (NW7) =可変長 （初期値）	Codabar (NW7) =可変長 \ A \ F N C 3 $ C C B L C 0 0 \ C R

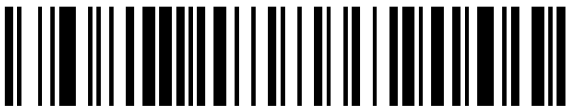
Codabar (NW7) =固定	Codabar (NW7) =固定 \ A \ F N C 3 $ C C B L C 0 1 \ C R

CODABAR(NW7)桁数設定　最小最大桁数の設定

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字2桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。

例	設定方法
最小桁数 2	Codabar(NW7)桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0 と 2 を読ませる。
最大桁数 40	Codabar(NW7)桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 4 と 0 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

Codabar (NW7) 桁数 1 の設定 （初期値=03）	Codabar (NW7) 桁数1の設定  \ A \ F N C 3 $ P , C C B L 1
Codabar (NW7) 桁数 2 の設定 （初期値=50）	Codabar (NW7) 桁数2の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C C B L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7

8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

CODE93

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Code 93=無効 （初期値）	Code 93=無効 \ A \ F N C 3 $ C C 9 E N 0 0 \ C R
Code 93＝有効	Code 93=有効 \ A \ F N C 3 $ C C 9 E N 0 1 \ C R
Code 93 のチェックデジット 検査しない	Code 93チェックデジット=検査しない \ A \ F N C 3 $ C C 9 C C 0 0 \ C R
Code 93 チェックデジット キャラクタ“C”	Code 93チェックデジット=キャラクタC \ A \ F N C 3 $ C C 9 C C 0 1 \ C R
Code 93 チェックデジット キャラクタ“K”	Code 93チェックデジット=キャラクタ”K” \ A \ F N C 3 $ C C 9 C C 0 2 \ C R

Code 93 チェックデジット キャラクタ“C”及び“K“ （初期値）	Code 93チェックデジット=キャラクタ”C”及び”K” \ A \ F N C 3 $ C C 9 C C 0 3 \ C R
Code 93 チェックデジット 送信=禁止	Code 93チェックデジット送信=禁止 \ A \ F N C 3 $ C C 9 C T 0 0 \ C R
Code 93 チェックデジット 送信=許可 （初期値）	Code 93チェックデジット送信=許可 \ A \ F N C 3 $ C C 9 C T 0 1 \ C R
Code 93 クワイエットゾーン 認識しない	Code 93クワイエットゾーン=認識しない \ A \ F N C 3 $ C C 9 L O 0 0 \ C R
Code 93 クワイエットゾーン 片側のみを認識	Code 93クワイエットゾーン=片側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 9 L O 0 1 \ C R
Code 93 クワイエットゾーン 両側を認識	Code 93クワイエットゾーン=両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 9 L O 0 2 \ C R
Code 93 クワイエットゾーン 自動認識 （初期値）	Code 93クワイエットゾーン=自動認識 \ A \ F N C 3 $ C C 9 L O 0 3 \ C R
Code 93 クワイエットゾーン 仮想両側認識	Code 93クワイエットゾーン=仮想両側認識 \ A \ F N C 3 $ C C 9 L O 0 4 \ C R

Code 93 デコード一致回数 1回 （初期値）	Code 93デコード一致回数=1 \ A \ F N C 3 $ C C 9 M R 0 1 \ C R
Code 93 デコード一致回数 2 回	Code 93デコード一致回数=2 \ A \ F N C 3 $ C C 9 M R 0 2 \ C R
Code 93 デコード一致回数 3 回	Code 93デコード一致回数=3 \ A \ F N C 3 $ C C 9 M R 0 3 \ C R
Code 93 デコード一致回数 4 回	Code 93デコード一致回数=4 \ A \ F N C 3 $ C C 9 M R 0 4 \ C R
Code 93 デコード厳格性レベル =無効	Code 93デコード厳格性レベル=無効 \ A \ F N C 3 $ $ C C 9 D L 0 0 \ C R
Code 93 デコード厳格性レベル =1	Code 93デコード厳格性レベル=1 \ A \ F N C 3 $ C C 9 D L 0 1 \ C R
Code 93 デコード厳格性レベル =2	Code 93デコード厳格性レベル=2 \ A \ F N C 3 $ C C 9 D L 0 2 \ C R
Code 93 デコード厳格性レベル =3 （初期値）	Code 93デコード厳格性レベル=3 \ A \ F N C 3 $ C C 9 D L 0 3 \ C R

Code 93 デコード厳格性レベル =4	Code 93デコード厳格性レベル=4 \ A \ F N C 3 $ C C 9 D L 0 4 \ C R
Code 93 デコード厳格性レベル =5	Code 93デコード厳格性レベル=5 \ A \ F N C 3 $ C C 9 D L 0 5 \ C R

CODE 93 桁数設定

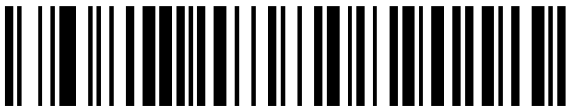
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Code 93=可変長 （初期値）	Code 93=可変長 \ A \ F N C 3 $ C C 9 L C 0 0 \ C R
Code 93=固定	Code 93=固定 \ A \ F N C 3 $ C C 9 L C 0 1 \ C R

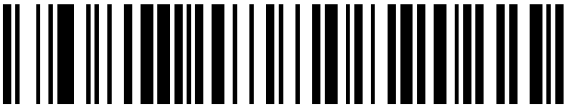
CODE 93 桁数設定　最小最大桁数の設定

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字2桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。

例	設定方法
最小桁数 2	Code 93 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0 と 2 を読ませる。
最大桁数 50	Code 93 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 5 と 0 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

Code 93 桁数 1 の設定 （初期値=01）	Code 93 桁数1の設定  \ A \ F N C 3 $ P , C C 9 L 1

Code 93 桁数 2 の設定 （初期値=50）	Code 93 桁数2の設定  \ A \ F N C 3 $ P , C C 9 L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

GS1 DATABAR OMNIDIRECTIONAL

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
GS1 Databar Omnidirectional=無効（初期値）	GS1 DataBar Omnidirectional=無効 \ A \ F N C 3 $ C 4 B E N 0 0 \ C R
GS1 Databar Omnidirectional=有効	GS1 DataBar Omnidirectional=有効 \ A \ F N C 3 $ C 4 B E N 0 1 \ C R
GS1 DatabarOmnidirectional から GS1-128 に変換=無効（初期値）	GS1 DataBar OmnidirectionalからGS1-128に変換=無効 \ A \ F N C 3 $ C 4 B U 8 0 0 \ C R
GS1 DatabarOmnidirectional から GS1-128 に変換=有効	GS1 DataBar OmnidirectionalからGS1-128に変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C 4 B U 8 0 1 \ C R
GS1 DatabarOmnidirectional デコード一致回数 1回（初期値）	GS1 DatabarOmnidirectionalデコード一致回数=1 \ A \ F N C 3 $ C 4 B M R 0 1 \ C R
GS1 DatabarOmnidirectional デコード一致回数 2 回	GS1 DatabarOmnidirectionalデコード一致回数=2 \ A \ F N C 3 $ C 4 B M R 0 2 \ C R
GS1 DatabarOmnidirectional デコード一致回数 3 回	GS1 DatabarOmnidirectionalデコード一致回数=3 \ A \ F N C 3 $ C 4 B M R 0 3 \ C R

GS1 DatabarOmnidirectional デコード一致回数 4 回	GS1 DatabarOmnidirectionalデコード一致回数=4 \ A \ F N C 3 $ C 4 B M R 0 4 \ C R

GS1 DATABAR EXPANDED

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
GS1 Databar Expanded=無効 （初期値）	GS1 DataBar Expanded=無効 \ A \ F N C 3 $ C X B E N 0 0 \ C R
GS1 Databar Expanded =有効	GS1 DataBar Expanded=有効 \ A \ F N C 3 $ C X B E N 0 1 \ C R
GS1 Databar Expanded から GS1-128 に変換=無効 （初期値）	GS1 Databar ExpandedからGS1-128に変換=無効 \ A \ F N C 3 $ C X B U 8 0 0 \ C R
GS1 Databar Expanded から GS1-128 に変換=有効	GS1 Databar ExpandedからGS1-128に変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C X B U 8 0 1 \ C R
GS1 Databar Expanded デコード一致回数 1回 （初期値）	GS1 Databar Expandedデコード一致回数=1 \ A \ F N C 3 $ C X B M R 0 1 \ C R
GS1 Databar Expanded デコード一致回数 2回	GS1 Databar Expandedデコード一致回数=2 \ A \ F N C 3 $ C X B M R 0 2 \ C R

GS1 Databar Expanded デコード一致回数 3 回	GS1 Databar Expandedデコード一致回数=3 \ A \ F N C 3 $ C X B M R 0 3 \ C R
GS1 Databar Expanded デコード一致回数 4 回	GS1 Databar Expandedデコード一致回数=4 \ A \ F N C 3 $ C X B M R 0 4 \ C R

GS1 DATABAR EXPANDED 桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
GS1 Databar Expanded = 可変長 （初期値）	GS1 Databar Expanded=可変長 \ A \ F N C 3 $ C X B L C 0 0 \ C R
GS1 Databar Expanded =固定	GS1 Databar Expanded=固定 \ A \ F N C 3 $ C X B L C 0 1 \ C R

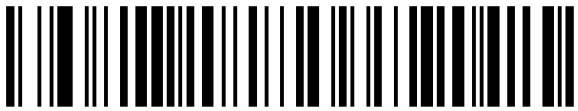
GS1 DATABAR EXPANDED 桁数設定　最小最大桁数の設定

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字 2 桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。

例	設定方法
最小桁数 2	GS1 DataBar Expanded 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0 と 2 を読ませる。
最大桁数 50	GS1 DataBar Expanded 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 5 と 0 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

GS1 DataBar Expanded 桁数 1 の設定 （初期値=01）	GS1 DataBar Expanded 桁数1の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C X B L 1

GS1 DataBar Expanded 桁数 2 の設定 （初期値=74）	GS1 DataBar Expanded 桁数2の設定  \ A \ F N C 3 $ P , $ C X B L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

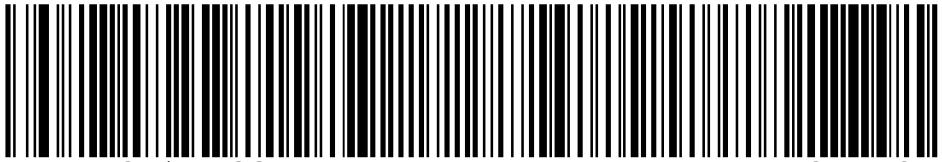
GS1 DATABAR LIMITED

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
GS1 Databar Limited=無効 （初期値）	GS1 DataBar Limited=無効 \ A \ F N C 3 $ C L B E N 0 0 \ C R

GS1 Databar Limited=有効	GS1 DataBar Limited=有効 \ A \ F N C 3 $ C L B E N 0 1 \ C R
GS1 Databar Limited から GS1-128 に変換=無効	GS1 Databar LimitedからGS1-128に変換=無効 \ A \ F N C 3 $ C L B U 8 0 0 \ C R
GS1 Databar Limited から GS1-128 に変換=有効	GS1 Databar LimitedからGS1-128に変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C L B U 8 0 1 \ C R
GS1 Databar Limited デコード一致回数 1回 （初期値）	GS1 Databar Limitedデコード一致回数=1 \ A \ F N C 3 $ C L B M R 0 1 \ C R
GS1 Databar Limited デコード一致回数 2回	GS1 Databar Limitedデコード一致回数=2 \ A \ F N C 3 $ C L B M R 0 2 \ C R
GS1 Databar Limited デコード一致回数 3 回	GS1 Databar Limitedデコード一致回数=3 \ A \ F N C 3 $ C L B M R 0 3 \ C R
GS1 Databar Limited デコード一致回数 4 回	GS1 Databar Limitedデコード一致回数=4 \ A \ F N C 3 $ C L B M R 0 4 \ C R

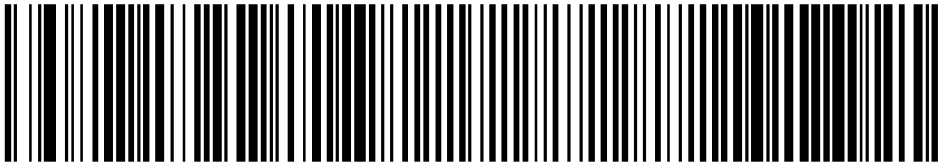
反転バーコードの読み取り
初期値は無効となります。

反転バーコードの読み取り=有効



\ A\ FNC3$P, CSPA10A010205010305FF04FBFC, P\ CR

反転バーコードの読み取り=無効



\ A\ FNC3$P, CSPA109010205010305010405 01, P\ CR

7. 2 次元バーコード設定

QR コード

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
QR コード=無効	2D_QR Code=無効 \ A \ F N C 3 $ C Q R E N 0 0 \ C R
QR コード =有効 （初期値）	2D_QR Code=有効 \ A \ F N C 3 $ C Q R E N 0 1 \ C R

QR コード桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
QR コード桁数=可変長 （初期値）	2D_QR Code桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C Q R L C 0 0 \ C R
QR コード桁数=固定	2D_QR Code桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C Q R L C 0 1 \ C R

QR コード桁数設定　最小最大桁数の設定

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字 4 桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。 桁数設定範囲は 0001-7089 です。

例	設定方法
最小桁数 0001	QR コード桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0001 を読ませる。
最大桁数 1800	QR コード桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 1800 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

QR コード桁数 1 の設定 （初期値=0001）	**2D_QR Code 桁数1の設定** \ A \ F N C 3 $ P , C Q R L 1
QR コード桁数 2 の設定 （初期値=7089）	**2D_QR Code 桁数2の設定** \ A \ F N C 3 $ P , C Q R L 2

0 \ A \ F N C 3 0	**1** \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	**3** \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	**5** \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	**7** \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	**9** \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	**桁数設定完了** \ A \ F N C 3 $ P ,

マイクロ QR コード

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
マイクロ QR コード=無効 （初期値）	2D_Micro QR Code=無効 \ A \ F N C 3 $ C M Q E N 0 0 \ C R
マイクロ QR コード =有効	2D_Micro QR Code=有効 \ A \ F N C 3 $ C M Q E N 0 1 \ C R

マイクロ QR コード桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
マイクロ QR コード桁数=可変長 （初期値）	2D_Micro QR Code桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C M Q L C 0 0 \ C R
マイクロ QR コード桁数=固定	2D_Micro QR Code桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C M Q L C 0 1 \ C R

QR コード桁数 1 の設定 （初期値=0001）	2D_Micro QR Code 桁数1の設定 \ A \ F N C 3 $ P , $ C M Q L 1

QR コード桁数 2 の設定 （初期値=7089）	**2D_Micro QR Code 桁数2の設定** \ A \ F N C 3 $ P , $ C M Q L 2

0 \ A \ F N C 3 0	**1** \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	**3** \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	**5** \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	**7** \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	**9** \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	**桁数設定完了** \ A \ F N C 3 $ P ,

Data Matrix

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
Data Matrix=無効	**2D_Data Matrix=無効** \ A \ F N C 3 $ C D M E N 0 0 \ C R

Data Matrix =有効 （初期値）	2D_Data Matrix=有効 \ A \ F N C 3 $ C D M E N 0 1 \ C R

Data Matrix スタイル

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Data Matrix スタイル =正方形	2D_Data Matrixスタイル設定=正方形 \ A\ F NC3 $ CDMDM3 F F F 0 B D F \ CR
Data Matrix スタイル =矩形 （初期値）	2D_Data Matrix=有効 \ A \ F N C 3 $ C D M E N 0 1 \ C R
Data Matrix スタイル =正方・矩形 （初期値）	2D_Data Matrixスタイル設定=正方形・矩形 \ A\ F NC3 $ CDMDM3 F F F F F F F \ CR

DataMatrix 桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Data Matrix 桁数=可変長 （初期値）	2D_Data Matrix桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C D M L C 0 0 \ C R
Data Matrix 桁数 =固定	2D_Data Matrix桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C D M L C 0 1 \ C R

DataMatrix 桁数設定 最小最大桁数

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字 4 桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。 桁数設定範囲は 0001-3116 です。

例	設定方法
最小桁数 0001	Data Matrix 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0001 を読ませる。
最大桁数 3000	Data Matrix 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 3000 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

Data Martix 桁数 1 の設定 （初期値=0001）	2D_Data Matrix 桁数1の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C D M L 1
Data Matrix 桁数 2 の設定 （初期値=3116）	2D_Data Matrix 桁数2の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C D M L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3

4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

Maxicode

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Maxicode=無効 （初期値）	2D_Maxicode=無効 \ A \ F N C 3 $ C M X E N 0 0 \ C R
Maxicode =有効 （初期値）	2D_Maxicode=有効 \ A \ F N C 3 $ C M X E N 0 1 \ C R

Maxicode プライマリメッセージ送信

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,

Maxicode プライマリメッセージ送信=無効 （初期値）	2D_Maxicodeプライマリーメッセージ送信=無効 \ A \ F N C 3 $ C M X P T 0 0 \ C R
Maxicode プライマリメッセージ送信=有効	2D_Maxicodeプライマリーメッセージ送信=有効 \ A \ F N C 3 $ C M X E N 0 1 \ C R

Maxicode 桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Maxicode 桁数=可変長 （初期値）	2D_Maxicode桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C M X L C 0 0 \ C R
Maxicode 桁数 =固定	2D_Maxicode桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C M X L C 0 1 \ C R

Maxicode 桁数設定 最小最大桁数

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字 4 桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。 桁数設定範囲は 0001-0145 です。

例	設定方法
最小桁数 0020	Maxicode 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0020 を読ませる。
最大桁数 0100	Maxicode 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0100 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

Maxicode 桁数 1 の設定 （初期値=0001）	2D_Maxicode 桁数1の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C M X L 1

Maxicode 桁数 2 の設定 （初期値=0145）	**2D_Maxicode 桁数2の設定** \ A \ F N C 3 $ P , C M X L 2

0 \ A \ F N C 3 0	**1** \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	**3** \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	**5** \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	**7** \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	**9** \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	**桁数設定完了** \ A \ F N C 3 $ P ,

Aztec

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
Aztec=無効 （初期値）	**2D_Aztec Code=無効** \ A \ F N C 3 $ C A Z E N 0 0 \ C R

Aztec =有効 （初期値）	2D_Aztec Code=有効 \ A \ F N C 3 $ C A Z E N 0 1 \ C R

Aztec 桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Aztec 桁数=可変長 （初期値）	2D_Aztec Code桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C A Z L C 0 0 \ C R
Maxicode 桁数 =固定	2D_Aztec Code桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C A Z L C 0 1 \ C R

Aztec 桁数設定 最小最大桁数

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字 4 桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。 桁数設定範囲は 0001-0145 です。

例	設定方法
最小桁数 0005	Aztec 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0005 を読ませる。
最大桁数 0300	Aztec 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0300 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

Aztec 桁数 1 の設定 （初期値=0001）	2D_Aztec Code 桁数1の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C A Z L 1
Aztec 桁数 2 の設定 （初期値=3832）	2D_Aztec Code 桁数2の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C A Z L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

PDF417

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
PDF417=無効 （初期値）	2D_Micro PDF417=無効 \ A \ F N C 3 $ C M I E N 0 0 \ C R
PDF417 =有効 （初期値）	2D_Micro PDF417=有効 \ A \ F N C 3 $ C M I E N 0 1 \ C R

PDF417 桁数設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
PDF417 桁数=可変長 （初期値）	2D_Micor PDF417桁数=可変長 \ A \ F N C 3 $ C M I L C 0 0 \ C R
PDF417 桁数 =固定	2D_Micor PDF417桁数=固定 \ A \ F N C 3 $ C M I L C 0 1 \ C R

PDF417 桁数設定 最小最大桁数

最小最大桁数の設定を行うには、下記のそれぞれのバーコードを読ませた後、数字 4 桁のバーコードを読ませて、設定を行ないます。 桁数設定範囲は 0001-2710 です。

例	設定方法
最小桁数 0001	PDF417 桁数 1 の設定を読ませた後、数字バーコードの 0001 を読ませる。
最大桁数 2500	PDF417 桁数 2 の設定を読ませた後、数字バーコードの 2500 を読ませる。

最後に桁数設定完了のバーコードを読ませて完了となります。

PDF417 桁数 1 の設定 （初期値=0001）	2D_Micro PDF417 桁数1の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C M I L 1
PDF417 桁数 2 の設定 （初期値=2710）	2D_Micro PDF417 桁数2の設定 \ A \ F N C 3 $ P , C M I L 2

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3

4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	桁数設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

GS1 Databar Omnidirectional 2D コンポーネント

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
GS1 Databar Omnidirectional 2D コンポーネント=無効（初期値）	2D_GS1 DataBar Omnidirectional 2Dコンポーネント=無効 \ A \ F N C 3 $ C 4 B 2 D 0 0 \ C R
GS1 Databar Omnidirectional 2D コンポーネント=有効	2D_GS1 DataBar Omnidirectional 2Dコンポーネント=有効 \ A \ F N C 3 $ C 4 B 2 D 0 1 \ C R

GS1 Databar Expanded 2D コンポーネント

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,

GS1 Databar Expanded 2D コンポーネント=無効 （初期値）	2D_GS1 DataBar Expanded 2Dコンポーネント=無効 \ A \ F N C 3 $ C X B 2 D 0 0 \ C R
GS1 Databar Expanded 2D コンポーネント=有効	2D_GS1 DataBar Expanded 2Dコンポーネント=有効 \ A \ F N C 3 $ C X B 2 D 0 1 \ C R

GS1 Databar Limited 2D コンポーネント

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
GS1 Databar Limited 2D コンポーネント=無効 （初期値）	2D_GS1 DataBar Limited 2Dコンポーネント=無効 \ A \ F N C 3 $ C L B 2 D 0 0 \ C R
GS1 Databar Limited 2D コンポーネント=有効	2D_GS1 DataBar Limited 2Dコンポーネント=有効 \ A \ F N C 3 $ C L B 2 D 0 1 \ C R

8. 機能設定(2 次元バーコード対応製品)

照準設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
照準設定=無効	2D_照準設定=無効 \ A \ F N C 3 $ C T A A P 0 0 \ C R
照準設定=有効 (初期値)	2D_照準設定=有効 \ A \ F N C 3 $ C T A A P 0 1 \ C R

ピックモード

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
照準設定=無効 (初期値)	2D_ピックモード=無効 \ A \ F N C 3 $ C S N P M 0 0 \ C R
照準設定=有効	2D_ピックモード=有効 \ A \ F N C 3 $ C S N P M 0 1 \ C R

マルチラベル読み取り

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,

マルチラベル=無効 （初期値）	2D_マルチラベル=無効 \ A \ F N C 3 $ C S N M L 0 0 \ C R
マルチラベル=有効	2D_マルチラベル=有効 \ A \ F N C 3 $ C S N M L 0 1 \ C R

マルチラベル出力(コード種類順)

この機能を有効にする場合、マルチラベル読み取りを有効にしてください。 6 種類までのコードを設定した順番で出力します。 下記に示された各コード2桁の数値をそれぞれ 6 コード分入力し、12 桁の数値を巻末のキーパッドを用いて入力します。

初期設定は 000000000000(ランダム)です

例)EAN/JAN13、CODABAR、Code39 の順で出力する場合、042324000000 と入力します。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
マルチラベル コード順設定=有効	2D_マルチラベル コード順送信設定 \ A \ F N C 3 $ C S N M S
キャンセル	キャンセル \ A \ F N C 3 ~

コード	値
EAN/JAN13	04
EAN/JAN 8	03
UPC-A	01
UPC-E	02
Code39	24
Code128	0C
GS1-128	0A
I 2 OF 5	22
CODABAR	23
Code93	27
GS1 DataBar オムニダイレクト	29
GS1 DataBar エクスパンテッド	28
GS1 DataBar リミテッド	33
QR コード	10
DataMatrix	0E
MaxiCode	0F
Aztec	4E
PDF417	2F
MicroPDF	32
GS1 DataBar オムニダイレクト 2D コンポーネント	35
GS1 DataBar エクスパンテッド 2D コンポーネント	36
GS1 DataBar リミテッド 2D コンポーネント	34

マルチラベル出力(桁数順)

この機能を有効にする場合、マルチラベル読み取りを有効にしてください。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
マルチラベル 桁数順設定 =無効	2D_マルチラベル桁数順送信設定=無効 \ A \ F N C 3 $ C S N M T 0 0 \ C R
マルチラベル 桁数順設定 =大きい順	2D_マルチラベル桁数順送信設定=大きい順 \ A \ F N C 3 $ C S N M T 0 1 \ C R

マルチラベル 桁数順設定 =小さい順	2D_マルチラベル桁数順送信設定=小さい順 \ A \ F N C 3 $ C S N M T 0 2 \ C R

2次元バーコード ノーマル/反転 バーコード読み取り設定

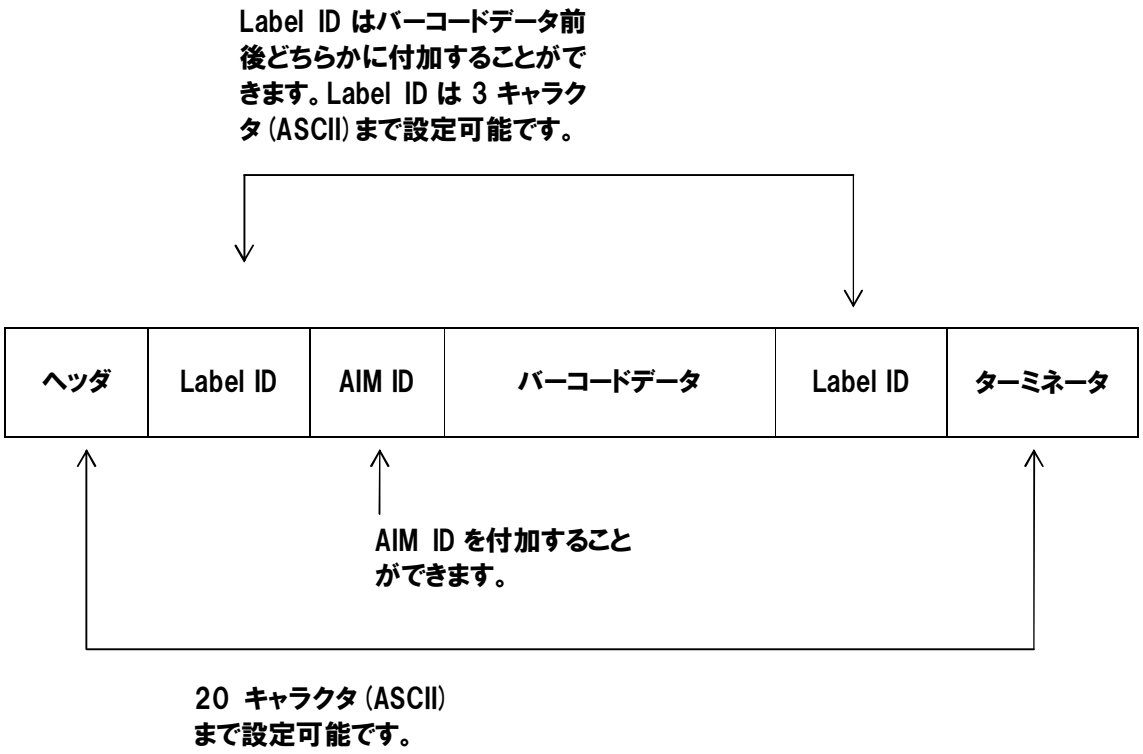
この設定は以下の2次元バーコードに反映するものです。

Data Matrix、QR コード、Aztec

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
2次元バーコード =ノーマル読み取り （初期値）	2D_Normal/Inverse=Normal \ A \ F N C 3 $ C I P N R 0 0 \ C R
2次元バーコード =反転読み取り	2D_Normal/Inverse=Inverse（反転） \ A \ F N C 3 $ C I P N R 0 1 \ C R
2次元バーコード =ノーマル/反転 両方の読み取り	2D_Normal/Inverse=両方有効 \ A \ F N C 3 $ C I P N R 0 2 \ C R

9. データ編集の設定

データ編集の概要



グローバルヘッダ／ グローバルターミネータの設定

“設定の開始と終了”バーコードを読み取り後、付録 D,「ASCII チャート」に記載されているキャラクタに対応した Hex No.の数字あるいはアルファベットを入力します。20 キャラクタまで設定可能です。20 キャラクタ未満の場合は入力後「データフォーマット設定完了」バーコードを 2 回スキャンして下さい。

注記	**1 キャラクタのみの登録の場合、Null キャラクタ 00 を追加してください。** **例） STX の場合 「0」「2」「0」「0」** **ヘッダなし → 「0」「0」「0」「0」** **ターミネータなし → 「0」「0」「0」「0」**

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
グローバルヘッダ	**ヘッダの設定** \ A \ F N C 3 $ C L F P R
グローバルターミネータ	**ターミネータの設定** \ A \ F N C 3 $ C L F S U

0 \ A \ F N C 3 0	**1** \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	**3** \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	**5** \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	**7** \ A \ F N C 3 7

8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
A \ A \ F N C 3 A	B \ A \ F N C 3 B
C \ A \ F N C 3 C	D \ A \ F N C 3 D
E \ A \ F N C 3 E	F \ A \ F N C 3 F
キャンセル \ A \ F N C 3 ~	データフォーマット設定完了 \ A \ F N C 3 $ P ,

ヘッダなしの設定 ダイレクト設定可	ヘッダなしの設定 \ A\ F NC3 $ P, CL F PR0000, P\ CR
ターミネータなしの設定 ダイレクト設定可	ターミネータなしの設定 \ A\ F NC3 $ P, CL F SU0000, P\ CR

グローバル AIM ID の設定

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
グローバル AIM ID=付加しない （初期値）	AIM ID=付加しない \ A \ F N C 3 $ C A I E N 0 0 \ C R
グローバル AIM ID=付加する	AIM ID=付加する \ A \ F N C 3 $ C A I E N 0 1 \ C R

注記	AIM ID を付加しないのが初期値となりますが、GS1-128 だけは GS1-128 の AIM-ID となる]C1 がバーコードデータの前に付加されます。これを無効するには、以下の設定バーコードを読ませてください。

GS1-128 のグローバル AIM-ID=無効	GS1-128のAIM-ID=無効 \ A \ F N C 3 $ C U 8 A I 0 0 \ C R

個別ラベル ID コントロール

個別ラベル ID=無効	ラベルID=無効 \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 0 \ C R
個別ラベル ID= バーコードデータ前に付加	ラベルID=バーコードデータ前に付加 \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 1 \ C R
個別ラベル ID= バーコードデータ後に付加	ラベルID=バーコードデータ後に付加 \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 2 \ C R

ラベル ID セット

スキャナには初期状態時に 2 種類のラベルセットが用意されています。

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,
ラベル ID=Set 1 （初期値）	**ラベルID=Set 1** \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 0 \ C R
ラベル ID=Set 2	**ラベルID=Set 2** \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 1 \ C R

	セット1	セット2
CODABAR	%	R
CODE128	#	T
CODE39	*	V
CODE93	&	U
GS1DATABAR オムニダイレクト	R4	u
GS1DATABAR エクスパンテッド	RX	t
GS1DATABAR リミテッド	RL	v
GS1-128		k
EAN13	F	B
EAN13 P2	F	L
EAN13 P5	F	M
EAN8	FF	A
EAN8 P2	FF	J
EAN8 P5	FF	K
I 2OF 5	i	N
UPCA	A	C
UPCA P2	A	F
UPCA P5	A	G
UPCE	E	D
UPCE P2	E	H
UPCE P5	E	I

ラベル ID 個別設定

手順	操作	例			
1	「設定開始/終了」を読み取ります。				
2	前頁のラベル ID コントロールで ID を付加する位置を設定します	前	後	前	後
3	ラベル ID を付加するバーコードを選択します	Code39	I 2 of 5	NW7	JAN
4	ラベル ID(例)	DB*	=C3	+	PH
5	設定ラベルを読み取り後、付録 C の「ASCII チャート」に対応した値を入力します。	44 42 2A	3D 43 33	2B	50 48
6	「設定開始/終了」を読み取ります。 3キャラクタ登録の場合は1回 2キャラクタ以下の登録の場合は、「設定開始/終了」を2回読み取って完了です。				

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
ラベル ID=無効	ラベルID=無効 \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 0 \ C R
ラベル ID= バーコードデータ前に付加	ラベルID=バーコードデータ前に付加 \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 1 \ C R
ラベル ID= バーコードデータ後に付加	ラベルID=バーコードデータ後に付加 \ A \ F N C 3 $ C I D C O 0 2 \ C R
Set Codabar (NW7)	Set Codabar (NW7) \ A \ F N C 3 $ C C B I D

Set Code 128	Set Code 128 \ A \ F N C 3 $ C C 8 I D
Set GS1-128	Set GS-128 \ A \ F N C 3 $ C U 8 I D
Set Code 39	Set Code 39 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I D
Set Code 93	Set Code 93 \ A \ F N C 3 $ C C 3 I D
Set GS1 Databar Omnidirectional	Set GS1 Databar Omnidirectional \ A \ F N C 3 $ C 4 B I D
Set GS1 Databar Expanded	Set GS1 Databar Expanded \ A \ F N C 3 $ C X B I D
Set GS1 Databar Limited	Set GS1 Databar Limited \ A \ F N C 3 $ C L B I D
Set EAN 13	Set EAN 13 \ A \ F N C 3 $ C 3 B I D
Set EAN 13 P2	Set EAN 13 P2 \ A \ F N C 3 $ C 3 2 I D

Set EAN 13 P5	**Set EAN 13 P5** \ A \ F N C 3 $ C 3 5 I D
Set EAN 8	**Set EAN 8** \ A \ F N C 3 $ C 8 B I D
Set EAN 8 P2	**Set EAN 8 P2** \ A \ F N C 3 $ C 8 2 I D
Set EAN 8 P5	**Set EAN 8 P5** \ A \ F N C 3 $ C 8 5 I D
Set I 2 of 5	**Set I 2 of 5** \ A \ F N C 3 $ C I 2 I D
Set UPC A	**Set UPC A** \ A \ F N C 3 $ C A B I D
Set UPC A P2	**Set UPC A P2** \ A \ F N C 3 $ C A 2 I D
Set UPC A P5	**Set UPC A P5** \ A \ F N C 3 $ C A 5 I D
Set UPC E	**Set UPC E** \ A \ F N C 3 $ C E B I D

Set UPC E P2	Set UPC E P2 \ A \ F N C 3 $ C E 2 I D
Set UPC E P5	Set UPC E P5 \ A \ F N C 3 $ C E 5 I D

大文字小文字変換

読取バーコードのデータの大文字 (A～Z) 小文字 (a～z) 変換を行います。
ラベル ID、ヘンダ、ターミネータなどは変換されません。

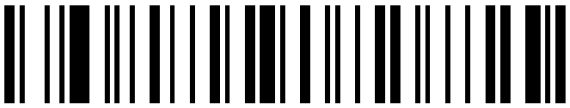
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
大文字小文字変換= 無効	大文字小文字変換=無効 \ A \ F N C 3 $ C L F C A 0 0 \ C R
大文字変換	大文字変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C L F C A 0 1 \ C R
小文字変換	小文字変換=有効 \ A \ F N C 3 $ C L F C A 0 2 \ C R

キャラクタ変換

4キャラクタの組合せまでの変換が可能です。

手順	操作	例
1	「設定の開始と終了」を読取ります	
2	「データキャラクタ変換の設定」を読取ります。	
3	変換したいキャラクタ	GS (1D) →@ (40)

4	付録 C の「ASCII チャート」に対応した値を入力します。1 キャラクタのみの変換であれば、残りは『F』12 回登録してください。	1D40FFFFFFFFFFFF 参考までに、（初期値:FFFFFFFFFFFFFFFF）
5	「設定開始/終了」を読取ります	

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
データキャラクタ変換の設定	データキャラクタ変換の設定  \ A \ F N C 3 $ C L F C H

10. パススルーモードの設定(AUXILIARY PORT MODE)

Magellan シリーズの AUX ポートを使って、弊社ハンドヘルドリーダとのパススルー接続を行う設定を紹介します。

初期設定 **(設定を工場出荷時に戻す)** **ダイレクト設定可**	**初期設定（設定を工場出荷時に戻す）** \ A \ F N C 3 $ P , A E , P \ C R
ラベル ID= **バーコードデータ前に付加** **ダイレクト設定可**	**ラベルID=バーコードデータ前に付加** \ A\ F N C 3 $ P , C I D C O 0 1 , P \ C R
ターミネータ無効の設定 **ダイレクト設定可**	**ターミネータの無効の設定** \ A\ F N C 3 $ P , C L F S U 0 0 0 0 , P \ C R
RTS/CTS **ダイレクト設定可**	**ハンドシェイク設定＝RTS/CTS** \ A\ F N C 3 $ P , C R 2 H C 0 1 , P \ C R

この状態で、EAN-13(JAN13)、EAN8(JAN8)、UPC-A、UPC-E は読み取りデータを Magellan シリーズに送信することが可能です。

以下は、その他のコードの設定条件となります。

CODE39 のパススルー設定に必要な条件

CODE39 スタート/ストップ **キャラクタ送信有効** **ダイレクト設定可**	**CODE39スタート/ストップキャラクタ送信 （パススルー時）** \ A\ F N C 3 $ P , C C 3 S S 0 1 , P \ C R

CODE128/GS1-128 のパススルー設定に必要な条件

CODE128 から CODE39 に **変換=有効** **ダイレクト設定可**	**CODE128からCODE39に変換=有効（パススルー時）** \ A\ F N C 3 $ P , C C 8 C 3 0 1 , P \ C R

GS1-128 から CODE128 に変換=有効 ダイレクト設定可	GS1-128からCODE128に変換=有効（パススルー時） \ A\ F N C 3 $ P , C U 8 E N 0 0 , P\ C R

Interleaved 2 of 5 のパススルー設定に必要な条件

Interleaved 2 of 5=有効 ダイレクト設定可	I 2 of 5=有効（パルスルー時） \ A\ F N C 3 $ P , C I 2 E N 0 1 , P\ C R

Codabar(NW7)のパススルー設定に必要な条件

Codabar (NW7) =有効 ダイレクト設定可	Codabar(NW7)=有効（パススルー時） \ A\ F N C 3 $ P , C C B E N 0 1 , P\ C R
Codabar (NW7) スタート/ストップキャラクタ 送信=許可 ダイレクト設定可	Codabar(NW7) スタート/ストップキャラクタ送信=許可（パススルー時） \ A\ F N C 3 $ P , C C B S S 0 1 , P\ C R
Codabar (NW7) スタート/ストップキャラクタ =ABCD/ABCD ダイレクト設定可	Codabar(NW7)スタートストップ=ABCD/ABCD（パススルー時） \ A\ F N C 3 $ P , C C B S C 0 1 , P\ C R

CODE93 のパススルー設定に必要な条件

CODE93=有効 ダイレクト設定可	Code 93=有効（パススルー時） \ A\ F N C 3 $ P , C C 9 E N 0 1 , P\ C R

GS1 DataBar OmniDIrectional のパススルー設定に必要な条件

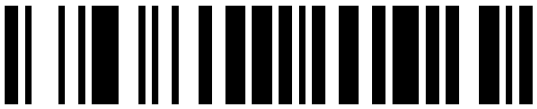
GS1 DataBar OmniDIrectional =有効 ダイレクト設定可	GS1 DataBar Omnidirectional=有効（パススルー時） \ A\ F N C 3 $ P , C 4 B E N 0 1 , P\ C R

11. レーザポインタの設定 (対象機種: PD7130-YB-PTR、PBT7100-YB-PTR)

レーザポインタコントロールとは、トリガー引いた直後にバーコード照準としてレーザポインタを出力するかどうか、それから出力する場合の照射時間の設定です。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
レーザコントロール照射なし	レーザポインタコントロール=0mse \ A \ F N C 3 $ C L S P C 0 0 \ C R
レーザコントロール照射 =100mse	レーザポインタコントロール=100mse \ A \ F N C 3 $ C L S P C 0 1 \ C R
レーザコントロール照射 =200mse	レーザポインタコントロール=200mse \ A \ F N C 3 $ C L S P C 0 2 \ C R
レーザコントロール照射 =300mse	レーザポインタコントロール=300mse \ A \ F N C 3 $ C L S P C 0 3 \ C R
レーザコントロール照射 =400mse	レーザポインタコントロール=400mse \ A \ F N C 3 $ C L S P C 0 4 \ C R
レーザコントロール照射 =500mse	レーザポインタコントロール=500mse \ A \ F N C 3 $ C L S P C 0 5 \ C R

ここで言うレーザポインタ照射時間とは、トリガー引いている間、レーザポインタがオンオフを繰り返します。オンとオフの時間を設定する事が可能です。

設定の開始と終了	設定の開始と終了  \ A \ F N C 3 $ P ,
レーザポインタ照射時間=なし	レーザポインタ照射時間=オフ \ A \ F N C 3 $ C L S P P 0 0 \ C R
レーザポインタ照射時間 =500mse	レーザポインタ照射時間=500ms \ A \ F N C 3 $ C L S P P 0 1 \ C R
レーザポインタ照射時間 =200mse	レーザポインタ照射時間=1s \ A \ F N C 3 $ C L S P P 0 2 \ C R
レーザポインタ照射時間 =1.5s	レーザポインタ照射時間=1.5s \ A \ F N C 3 $ C L S P P 0 3 \ C R
レーザポインタ照射時間 =2s	レーザポインタ照射時間=2s \ A \ F N C 3 $ C L S P P 0 4 \ C R

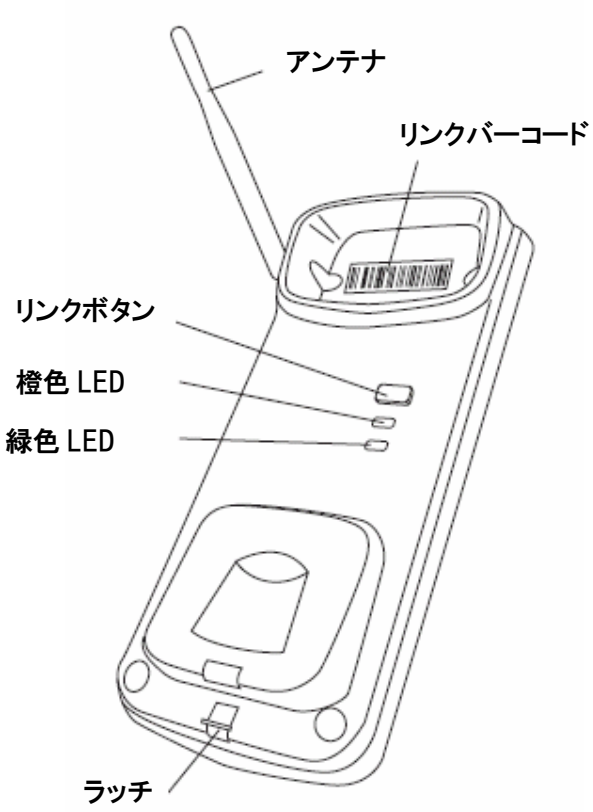
12. BLUETOOTH 設定(PBT7130、GBT4100/GD4400)

PBT7130 と専用クレードル(BC7030)のバインド(ペアリング)方法

1. クレードルのリンクボタンを1秒以上押してから放します。クレードルの橙色LEDが点滅します。
2. クレードルのリンクバーコードを読み取ります。接続完了となるとバーコードリーダの3回“低―中―高”ビープ音が鳴ります。

PBT7130 とクレードル(BC7030)との接続確認

スキャナとクレードルの接続確認をします。
リンクボタンを押して放すとバーコードリーダは5回ビープ音が鳴らします。



GBT4100/GD4400 とクレードル(BC4030-BT-XX)とのバインド(ペアリング)方法

1. Unlink のバーコードを読み取ります。
2. バーコードリーダのトリガーを引いてから、バーコードリーダをクレードルに置きます。
3. バーコードリーダがバインド済みの状態であれば、Unlinkの意味を表すビープ音が3回鳴ります。再度間隔を置いてピープ音が3回鳴ります。 これがバインドされた意味を表すビープ音となります。 バーコードリーダがどのクレードルともバインドされてない状態であれば、数秒経った後に、ビープ音が3回鳴ります。

バインド設定 アンリンク **ダイレクト設定可**	**Unlink** \ A \ F N C 3 U n l n k

GBT4100/GD4400 とクレードルとの接続確認

バーコードリーダとクレードルの接続確認をします。
クレードルのボタンを押して放すとスキャナが5回ビープ音を鳴らします。この作業で、バインド設定が確立しているかどうか確認できます。

PC 接続-サーバーモード

PC 接続 サーバーモード **ダイレクト設定可**	**PC接続(サーバーモード)** \ A \ F N C 3 L n k S v

接続時にエラーメッセージがある場合は、バーコードリーダの BT セキュリティーを無効にする必要があります。

PC 接続-クライアントモード

シリアルポートプロファイルを有した Blutooth が有効な PC にクライアントモードで接続します。
1．PC Bluetooth のアドレスが含んだ設定バーコードを下記の書式で用意します。バーコードは Code128 で作成します。
＜F3＞LnkB＜12 桁の bluetooth アドレス＞
2．COM ポートをアサインします。
3．1で作成した設定バーコードを読取ります。

BT セキュリティモード

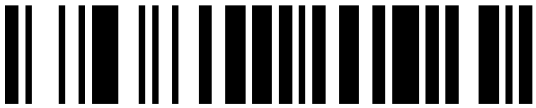
Bluetooth の認証と暗号化の設定を行います。 BT PIN コードと併用して用います。

設定の開始と終了	**設定の開始と終了** \ A \ F N C 3 $ P ,

BT セキュリティモード=無効 （初期値）	BTセキュリティーモード=無効 \ A \ F N C 3 $ C B T S E 0 0 \ C R
BT セキュリティモード=有効	BTセキュリティーモード=有効 \ A \ F N C 3 $ C B T S E 0 1 \ C R

BT PIN コード

Bluetooth の PIN コードの設定を行います。設定ラベルを読み取り後、巻末の「キーパッド」を用いての「ASCII チャート」に対応した数値を入力します。 BT セキュリティーモードを有効にする必要があります。

設定の開始と終了	設定の開始と終了  \ A \ F N C 3 $ P ,
BT PIN code （初期値: 1234） (31323334: ASCII)	BT PIN code \ A \ F N C 3 $ C B T P C
キャンセル	キャンセル \ A \ F N C 3 ~

BT ポーリングレート

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
BT ポーリングレート=最大	BTポーリングレート=最大 \ A \ F N C 3 $ C B T S T 0 0 \ C R

BT ポーリングレート=10ms	BTポーリングレート=10ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 0 1 \ C R
BT ポーリングレート=20ms	BTポーリングレート=20ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 0 2 \ C R
BT ポーリングレート=30ms	BTポーリングレート=30ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 0 3 \ C R
BT ポーリングレート=50ms	BTポーリングレート=50ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 0 5 \ C R
BT ポーリングレート=100ms	BTポーリングレート=100ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 0 A \ C R
BT ポーリングレート=150ms	BTポーリングレート=150ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 0 F \ C R
BT ポーリングレート=200ms	BTポーリングレート=200ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 1 4 \ C R
BT ポーリングレート=500ms	BTポーリングレート=500ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 3 2 \ C R

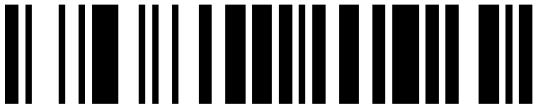
BT ポーリングレート=990ms	BTポーリングレート=990ms \ A \ F N C 3 $ C B T S T 6 3 \ C R
キャンセル	キャンセル \ A \ F N C 3 ~

送信完了ビープ

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
送信完了ビープ音=無効	送信完了ビープ音=無効 \ A \ F N C 3 $ C B T A B 0 0 \ C R
送信完了ビープ音=有効 （初期値）	送信完了ビープ音=有効 \ A \ F N C 3 $ $ C B T A B 0 1 \ C R

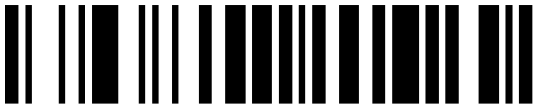
注記	Bletooth モデルにて、ブザー音を消した場合、グッドリード読み取りブザー音以外に、上記の送信完了ビープ音も無効にする必要があります。

送信完了ビープ音質

設定の開始と終了	設定の開始と終了  \ A \ F N C 3 $ P ,
送信完了ビープ音質=低音 （初期値）	送信完了ビープ音質=低音 \ A \ F N C 3 $ C B T B F 0 0 \ C R

送信完了ビープ音質=中音	送信完了ビープ音質=中音 \ A \ F N C 3 $ C B T B F 0 1 \ C R
送信完了ビープ音質=高音	送信完了ビープ音質=高音 \ A \ F N C 3 $ C B T B F 0 2 \ C R

送信完了ビープ音量

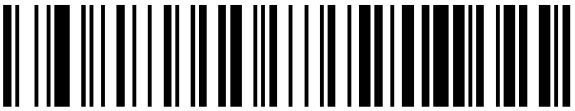
設定の開始と終了	設定の開始と終了  \ A \ F N C 3 $ P ,
送信完了ビープ音量=小	送信完了ビープ音量=小 \ A \ F N C 3 $ C B T B V 0 0 \ C R
送信完了ビープ音量=中	送信完了ビープ音量=中 \ A \ F N C 3 $ C B T B V 0 1 \ C R
送信完了ビープ音量=大 （初期値）	送信完了ビープ音量=大 \ A \ F N C 3 $ C B T B V 0 2 \ C R

送信完了ビープ音長

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
送信完了ビープ音長=80ms （初期値）	送信完了ビープ音長=80ms \ A \ F N C 3 $ C B T B D 0 8 \ C R
送信完了ビープ音長=120ms	送信完了ビープ音長=120ms \ A \ F N C 3 $ C B T B D 0 C \ C R
送信完了ビープ音長=160ms	送信完了ビープ音長=160ms \ A \ F N C 3 $ C B T B D 1 0 \ C R
送信完了ビープ音長=200ms	送信完了ビープ音長=200ms \ A \ F N C 3 $ C B T B D 1 4 \ C R

クレードル接続確認音の設定

バーコードリーダをクレードルに置いたときの確認音の設定となります。

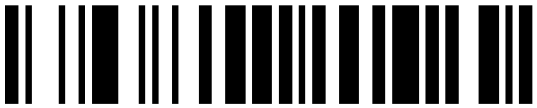
設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
Disconnect Beep=無効	Disconnect Beep=無効 \ A \ F N C 3 $ C B T D B 0 0 \ C R
Disconnect Beep=有効 （初期値）	Disconnect Beep=有効  \ A \ F N C 3 $ C B T D B 0 1 \ C R

クレードルビープ音の設定

バーコードリーダをクレードルに置いた時の確認音の設定です。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
クレードルビープ=無効	クレードルビープ=無効 \ A \ F N C 3 $ C B T A B 0 0 \ C R
クレードルビープ=有効 （初期値）	クレードルビープ=有効 \ A \ F N C 3 $ C B T A B 0 1 \ C R

通信圏外アラーム

設定の開始と終了	設定の開始と終了  \ A \ F N C 3 $ P ,
通信圏外アラーム音長 =無効（初期値）	通信圏外アラーム音長=無効 \ A \ F N C 3 $ C B T L B 0 0 \ C R
通信圏外アラーム音長 =1 秒	通信圏外アラーム音長=1秒 \ A \ F N C 3 $ C B T L B 0 1 \ C R
通信圏外アラーム音長 =3 秒	通信圏外アラーム音長=3秒 \ A \ F N C 3 $ C B T L B 0 3 \ C R
通信圏外アラーム音長 =5 秒	通信圏外アラーム音長=5秒 \ A \ F N C 3 $ C B T L B 0 5 \ C R

通信圏外アラーム音長 =10 秒	通信圏外アラーム音長=10秒 \ A \ F N C 3 $ C B T L B 0 A \ C R
通信圏外アラーム音長 =25 秒	通信圏外アラーム音長=25秒 \ A \ F N C 3 $ C B T L B 1 9 \ C R

パワーダウン時間

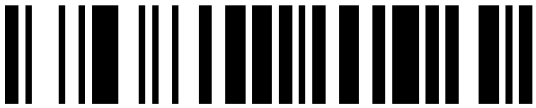
バーコードリーダがアイドル時に自動的にパワーOFFになるまでの時間を設定します。

設定の開始と終了	設定の開始と終了 \ A \ F N C 3 $ P ,
パワーダウン時間 =無効	パワーダウン時間=無効 \ A \ F N C 3 $ C S L P S 0 0 \ C R
パワーダウン時間 =10 分	パワーダウン時間=10分 \ A \ F N C 3 $ C S L P S 0 1 \ C R
パワーダウン時間 =20 分	パワーダウン時間=20分 \ A \ F N C 3 $ C S L P S 0 2 \ C R
パワーダウン時間 =30 分	パワーダウン時間=30分 \ A \ F N C 3 $ C S L P S 0 3 \ C R
パワーダウン時間 =40 分	パワーダウン時間=40分 \ A \ F N C 3 $ C S L P S 0 4 \ C R

パワーダウン時間 =60 分 （初期値）	**パワーダウン時間=60分** \ A \ F N C 3 $ C S L P S 0 6 \ C R
パワーダウン時間 =90 分	**パワーダウン時間=90分** \ A \ F N C 3 $ C S L P S 0 9 \ C R

バッチモード

通信が切断されているときにバーコードの読み取りデータをスキャナに一時的に保存する設定を行います。
無効： スキャナは読み取りデータを保存しません
オート： 通信切断時にバーコードデータをバーコードリーダに一時的に保存します。 通信が接続された時にデータを転送します。
マニュアル： 常時、読み取りデータをバーコードリーダに保存します。 保存データは、「データ送信」バーコードを読み取るとデータを送信します。 また「データ消去」を読み取ると、スキャナに保存されたデータを消去することができます。

設定の開始と終了	**設定の開始と終了**  \ A \ F N C 3 $ P ,
バッチモード =無効（初期値）	**バッチモード=無効** \ A \ F N C 3 $ C B T B M 0 0 \ C R
バッチモード=オート	**バッチモード=オート** \ A \ F N C 3 $ C B T B M 0 1 \ C R
バッチモード=マニュアル	**バッチモード=マニュアル** \ A \ F N C 3 $ C B T B M 0 2 \ C R

マニュアル　データ送信	**マニュアル　データ送信** \ A \ F N C 3 B a t c h S e n d
マニュアル　データ消去	**マニュアル　データ消去** \ A \ F N C 3 B a t c h C l e a r

データ送信、データ消去のバーコードは CODE128 で作成されています。

13. 付録

付録 A. LED 表示とビーパー音

表示内容	LED 表示	ビープ音
電源 ON		高音 4 回
読み取り成功	緑	シングル音
スキャナ無効 （ホストコマンドより）	点滅	-
プログラミングモード（以下の表示はプログラミングモードの場合になります）		
プログラミングモード切替時	点滅	低音 4 回
ラベル読取違い	-	低音 3 回
プログラムに続きがある時	-	高音 1 回
プログラム失敗	-	低音3回
プログラム終了時	-	高→低音 3 回→高 4 回

付録 B. 初期値一覧

RS-232, USB-COM 設定	
通信ボーレート（RS232 のみ設定可能）	9600
パリティ（RS232 のみ設定可能）	None
データビット（RS232 のみ設定可能）	8bit
ストップビット（RS232 のみ設定可能）	1bit
ハンドシェイク（RS232 のみ設定可能）	無効
ACK NAK（RS232, USB-COM 設定可能）	無効
ACK キャラクタ（RS232, USB-COM 設定可能）	ACK
NAK キャラクタ（RS232, USB-COM 設定可能）	NAK
ACK NAK タイムアウト（RS232, USB-COM 設定可能）	600ms
ACK NAK リトライ回数（RS232, USB-COM 設定可能）	3 回
有効／無効コマンド設定（RS232, USB-COM 設定可能）	D / E
キーボードウエッジ, USB キーボード	
キーボード言語	米国
Caps Lock	OFF
Num Lock	変更しない
キャラクタ間ディレー	なし
USB キーボードポーリングレート	1ms
機能設定	
2度読み防止時間	0.4s
スリープモード設定	無効
読取表示	デコード後
読取確認音	モノラル
読取確認音質	高音
読取確認音長さ	80ms
読取確認音量	大
読取確認 LED 表示	2s
グリーンスポット表示	300ms

バーコード設定	
EAN13	有効
EAN13 チェックデジット送信	有効
EAN13 デコード検証回数	1 回
EAN 8	有効
EAN 8 チェックデジット送信	有効
EAN 8 EAN 8 → EAN 13 変換	無効
EAN 8 デコード検証回数	1 回
UPC-A	有効
UPC-A チェックデジット送信	有効
UPC-A → EAN 13 変換	無効
UPC-E	有効
UPC-E チェックデジット送信	有効
UPC-E → EAN 13 変換	無効
UPC-E → UPC-A 変換	無効
UPC-E デコード検証回数	2 回
GTIN 変換	無効
EAN / UPC アドオン	2 桁:無効 5 桁:無効
Code39	有効
Code39 チェックデジット計算	無効
Code39 チェックデジット送信	有効
Code39 スタート/ストップキャラクタ送信	有効
Code39 Full ASCII 変換	無効
Code39 デコード検証回数	1 回
Code39 桁数	可変
Code39 桁数設定1	2 桁
Code39 桁数設定2	50 桁
Code128	有効
Code128 チェックデジット送信	無効
Code128 デコード検証回数	1 回
Code128 桁数	可変
Code128 桁数設定1	1 桁
Code128 桁数設定2	80 桁
I 2 OF 5	無効
I 2 OF 5 チェックデジット計算	無効
I 2 OF 5 チェックデジット送信	有効
I 2 OF 5 デコード検証回数	1 回
I 2 OF 5 桁数	可変
I 2 OF 5 桁数1	6 桁
I 2 OF 5 桁数2	50 桁

CODABAR	無効
CODABAR チェックデジット計算	無効
CODABAR チェックデジット送信	有効
CODABAR スタート/ストップ キャラクタ送信	無効
CODABAR スタート/ストップ キャラクタセット	Abcd/abcd
CODABAR デコード検証回数	1 回
CODABAR 桁数	可変
CODABAR 桁数設定1	3 桁
CODABAR 桁数設定2	50 桁
Code93	無効
Code93 チェックキャラクタ計算	C 及び K
Code93 チェックキャラクタ送信	有効
Code93 デコード検証回数	1 回
Code93 桁数	可変
Code93 桁数設定1	1 桁
Code93 桁数設定2	50 桁
GS1 DataBar オムニダイレクト	無効
GS1 DataBar オムニダイレクト EAN128 エミュレーション	無効
GS1 DataBar オムニダイレクトデコード検証回数	1 回
GS1 DataBar エクスパンテッド	無効
GS1 DataBar エクスパンテッド EAN128 エミュレーション	無効
GS1 DataBar エクスパンテッド デコード検証回数	1 回
GS1 DataBar エクスパンテッド デコード桁数	可変
GS1 DataBar エクスパンテッド 桁数設定1	3 桁
GS1 DataBar エクスパンテッド 桁数設定2	50 桁
GS1 DataBar リミテッド	無効
GS1 DataBar リミテッド EAN128 エミュレーション	無効
GS1 DataBar リミテッド デコード検証回数	1 回
データ編集	
ヘッダ	00(無し)
ターミネータ	0D(CR)
AIM ID	付加しない
ラベル ID コントロール	無効
ラベル ID セット	セット1
大文字小文字変換	無効
キャラクタ変換	変換無し

付録 C. キーパッド

0 \ A \ F N C 3 0	1 \ A \ F N C 3 1
2 \ A \ F N C 3 2	3 \ A \ F N C 3 3
4 \ A \ F N C 3 4	5 \ A \ F N C 3 5
6 \ A \ F N C 3 6	7 \ A \ F N C 3 7
8 \ A \ F N C 3 8	9 \ A \ F N C 3 9
A \ A \ F N C 3 A	B \ A \ F N C 3 B
C \ A \ F N C 3 C	D \ A \ F N C 3 D
E \ A \ F N C 3 E	F \ A \ F N C 3 F
キャンセル	キャンセル \ A \ F N C 3 ~

付録 D. ASCII チャート

ASCII Char.	Hex No.	ASCII Char.	Hex No.	ASCII Char.	Hex No.	ASCII Char.	Hex No.
NUL	00	SP	20	@	40	‘	60
SOH	01	!	21	A	41	a	61
STX	02	“	22	B	42	b	62
ETX	03	#	23	C	43	c	63
EOT	04	$	24	D	44	d	64
ENQ	05	%	25	E	45	e	65
ACK	06	&	26	F	46	f	66
BEL	07	’	27	G	47	g	67
BS	08	(	28	H	48	h	68
HT	09	)	29	I	49	i	69
LF	0A	*	2A	J	4A	j	6A
VT	0B	+	2B	K	4B	k	6B
FF	0C	,	2C	L	4C	l	6C
CR	0D	-	2D	M	4D	m	6D
SO	0E	.	2E	N	4E	n	6E
SI	0F	/	2F	O	4F	o	6F
DLE	10	0	30	P	50	p	70
DC1	11	1	31	Q	51	q	71
DC2	12	2	32	R	52	r	72
DC3	13	3	33	S	53	s	73
DC4	14	4	34	T	54	t	74
NAK	15	5	35	U	55	u	75
SYN	16	6	36	V	56	v	76
ETB	17	7	37	W	57	w	77
CAN	18	8	38	X	58	x	78
EM	19	9	39	Y	59	y	79
SUB	1A	:	3A	Z	5A	z	7A
ESC	1B	;	3B	[	5B	{	7B
FS	1C	<	3C	¥	5C	|	7C
GS	1D	=	3D	]	5D	}	7D
RS	1E	>	3E	^	5E	~	7E
US	1F	?	3F	_	5F	DEL	7F

付録 E. キーボードインターフェイスコード表

下位桁 \ 上位桁	0	1	2	3	4	5	6	7
0			SPACE	0	@	P	`	p
1			!	1	A	Q	a	q
2			"	2	B	R	b	r
3			#	3	C	S	c	s
4			$	4	D	T	d	t
5			%	5	E	U	e	u
6			&	6	F	V	f	v
7			'	7	G	W	g	w
8			(	8	H	X	h	x
9	TAB		)	9	I	Y	i	y
A			*	:	J	Z	j	z
B		ESC	+	;	K	[	k	{
C			,	<	L	＼	l	|
D	ENTER		-	=	M	]	m	}
E			.	>	N	^	n	~
F			/	?	O	_	o	DEL

付録 G. キーボードインターフェイスコード表　特殊キー配列表(81HEX～A0HEX)

HEX	キー	HEX	キー	HEX	キー	HEX	キー
81	Shift (Press)	8B	F7	95	↑	9F	右 Ctrl (press)
82	Shift (Release)	8C	F8	96	↓	A0	右 Ctrl (Relese)
83	Insert	8D	F9	97	←		
84	Enter (10 キー部)	8E	F10	98	→		
85	F1	8F	F11	99	右 Alt (Press)		
86	F2	90	F12	9A	右 Alt (Release)		
87	F3	91	HOME	9B	左 Alt (Press)		
88	F4	92	END	9C	左 Alt (Release)		
89	F5	93	PG UP	9D	左 Ctrl (press)		
8A	F6	94	PG DOWN	9E	左 Ctrl (Relese)		

IDEC DATALOGIC 株式会社
本 社 大阪市淀川区三国本町 1-10-40 Phone 06-6398-3200 Fax 06-6398-3202
東 京 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ/A棟14階 Phone 03-5715-2177 Fax 03-5715-2178
名古屋 名古屋市千種区今池 4-1-29 ニッセイ今池ビル Phone 052-732-1561 Fax 052-732-1562
URL http://www.idljp.com

Rev.H 2013_3_1